

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

NO.
247

2012
JANUARY

巻頭
特集

次世代を育む校友の
「つながり」

Brilliance
輝くひと
79

目標は世界の頂点。
けれど、そこで終わらせたくない
プロテニス選手 仁木拓人さん(06法入学)

りつめい No.247/2012年1月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行
発行人/山中 諄
編集人/中村和歳
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217
URL: <http://alumni.ritsumeijp>
E-mail: alumni@st.ritsumeijp

SPECIAL

03 巻頭特集 次世代を育む校友の「つながり」



01 輝くひと 仁木拓人さん



08 RITSUMEI INTERVIEW

フランス洋菓子専門店「W.Boléro」オーナーシェフ
渡邊雄二さん

SPECIAL

12 震災関連特集 「乗り越えよう」被災地へ、宮崎県校友からのメッセージ

宮崎県校友会会長 高橋一身さん 柏田精二さん
坂口和也さん 津江健太郎さん

多文化共生センターきょうと代表 重野亜久里さん
日本動物園水族館協会会長 山本茂行さん

16 立命館大学校友会東日本大震災義援金について

17 校友バンド「VELVETS」解散

18 校友会長を訪ねて

宮崎県校友会会長 高橋一身さん
宮城県校友会会長 下村泰雄さん



20 「オール立命館校友大会2011in京都」開催報告

22 校友会ネットワーク

24 学生イベント&スポーツ

26 キャンパストピックス

29 +Rな人

女子陸上競技部
田中華絵さん 竹中理沙さん 岩川真知子さん



30 INFORMATION

31 編集室から



表紙の人

プロテニス選手
仁木拓人さん
(06法入学)

目標は世界の頂点。 けれど、そこで終わらせたくない

「学生のオリンピック」と称されるユニバーシアード。今年8月に開催された「ユニバーシアード2011深圳」に日本代表として出場。シングルスベスト16、ミックスダブルス銅メダルの成績を取めた。現在、シングルス、ダブルスともに日本ランク9位のプロ選手だ。

高校時代、特に目立った活躍をしたわけではない。大学入学後もしばらくは、コンスタントであっても際立った戦績は残せなかった。「この位置から抜け出そう」。3回生の夏、トップレベルのコーチと練習仲間が揃う現在のチームに移り、自分のプレーを細かいところまで突き詰めた。「考えるプレー」を身につけ、上位選手との試合でも成長を実感する場面が多くなり、昨年5月プロデビュー。「プロになるのにはすごく勇気がいったけど、『今ならできると自信が持てた』」。

最初は力の差が歴然としていたチームの仲間たちとも、今では互角に戦えるようになってきた。ハイレベルな仲間たちとの練習は「少しでも気を緩めるとミスしてしまう」と、常に緊張感を持って取り組む。特徴である回転が多くかかった球は、受け手からすればたとえ速くなくても打ち返しが難しい。長所は「しつこいところ」。「ものすごい一球を打つ選手は多いけど、相手が『もう無理』と思うくらいしつこく打ち続けられる選手はそんなにたくさんいないと思う」。

「とことん追究する」法学部での学びは、プレーにも生かされているという。現在6回生。練習はハードだが、あきらめずに卒業を目指す。「大学に入ったからこそ、いろんな考えの人に出会い、様々な刺激を受けることができた。テニスだけの人生で終わらせたくないから、必ず卒業したい」。

「普通の学生生活を送りながらテニスを続けている自分は、スポーツの世界では少し特殊。そんな自分がよい成績を出すことで、ジュニアの選手たちに可能性を示せれば」。目標はグランドスラム(4大国際大会制覇)。「目指すならトップを狙って、最高の所でプレーしたい」。

(写真・小幡豊 文・平松万知)

巻頭特集

次世代を育む校友の

「つながり」



一般的には同年代の卒業生による交流がメインである、という印象が強い校友会活動において、会員校友による教育的・技術的指導を通じた後輩育成を活動の軸におく校友会がある。今回の巻頭特集では、これらの校友会のうち特筆的な活動実績を有する「立命館大学技術士会」「立命館学園会計人会」の取り組みを紹介する。



立命館大学技術士会の取り組み

同会は2009年12月に発足した。そのねらいと目的を含め、これまでの活動内容を、発起人の一人で現在は同会幹事長を務める糸田川廣志さん（'72理工）に聞いた。

同会発足のきっかけは

技術士は「豊富な実務経験、技術的専門知識および高度の応用能力を有するとして、国家から認定を受けた高級技術者」であり、文部科学省所管のもと（社）日本技術士会が資格認定試験を実施しています。建設、総合技術監理、上下水道など21の部門があり、現在全国で約7万2千人の技術士がいます。民間企業や行政において幹部技術者に必要とされる業務知識や力量が担保されることから、試験挑戦者は毎年相当数にのぼります。

立命館出身の技術士は500人前後いると推測されますが、250人程度は

名簿で把握できており、そのうち125名に本会の会員となっていただきました。大阪工業大学などは以前から組織的に卒業生の技術士養成に取り組み、現在は800人を越える技術士を擁するようになっており行政・産業界での存在感も際立っています。これらの状況に刺激されて、我ら立命館も組織的な動きを取るべきだとの機運が高まり、約3年間の準備期間を経て本会を設立しました。

試験は大変難関だと聞きますが

技術士試験は第一次および第二次で構成されますが、JABEE認定コースとあって、大学等教育機関における課程修了を第一次試験合格と同等とみなす制度があり、立命館大学にもその指定を受けているコースがあります*。現役学生には是非このメリットを享受してほしいですね。

第二次試験はまず筆記試験が行なわれ、その合格者にのみ口答試験が実施されます。事前に技術的体験論文の提出が必須とされ、その内容をもとに面接官より45分間の試問が行な

われるのですが、これが大変に厳しい（笑）。合格できなければ、また翌年筆記試験から再チャレンジを余儀無くされます。最終合格率は15%程度で、実は私も30代の頃に4度目の挑戦でようやく合格することができました。

*立命館大学では、「都市システム工学科」「環境システム工学科」がJABEE認定を受けている。

立命館大学技術士会では、試験受験に関する支援事業を展開していますね

本会では第二次試験全体の講習会と、筆記試験合格者に対して論文添削指導と口頭試験模擬を実施しています。本会には過去に試験の面接官を務めた会員もおりますので、かなり具体的な指導を行なっているとの自負があります。2010年度は2名に対して口頭試験模擬を実施し、2名ともに見事合格し我々技術士の仲間入りを果たしました。後から彼らに尋ねると模擬面接官は本番よりもはるかに厳しかったそうですが（笑）、そのことが逆に本番突破にける強い意気込みとなって好成果につながったと、ともに言ってくれ

ました。この言葉は我々指導する立場にとっても、大きな力を与えてくれます。2011年度は、現時点において本会関係者で7名の筆記合格者が出ましたので、より厳しい模擬面接をもって臨もうと、本会幹部は皆手ぐすねを引いて待っているところです。



立命館大学技術士会の今後の展開構想をお聞かせください

現在は近畿、特に大阪・京都の会員が中心となっていますが、これを少し

ずつ全国に広げていって、ゆくゆくは各地方の拠点都市で、今やっているような受験支援活動を展開できれば、と思っています。また、現在の本会は土木学科出身者が多いため、ほとんどが建設や総合技術監理、上下水道部門の技術士ですが、他学科の校友会と連携し、機械や電気電子、化学部門の技術士も会員に迎え、総合大学ならではの技術士会としたいですね。

私事になりますが、東日本大震災によって私の義理の娘（長男の配偶者）の母親と祖母が石巻にて津波の犠牲となりました。私もすぐ現地に駆けつけて復旧作業にあたったのですが、凄惨な光景を目の当たりにし比類なき悲しみに暮れる一方で、土木技術者としての

魂が疼くのを抑えられずにいました。土木技術者は国家・生命とその財を守るのが使命で、『想定外』などという言葉は、本来我々が決して口にしてはならない言葉だと強く思います。震災後すぐに私個人そして本会会員の意見を取りまとめ、国土交通省と日本技術士会に復興事業に関わる提言書を提出しました。こうした活動は、後輩育成とあわせて今後の本会の活動の主軸になっていくかも知れません。私は昨年胃がんを患い、体力面では色々と不安があったのですが、先日の検査で経過は良好であると出て、気力体力ともますます充実しました。自らの使命を全うすることと本会の活動発展に、これまで以上に全力を尽くしていきたいと思っています。

立命館学園会計人会の取り組み

同会は、1987年4月に設立されて以降、継続的に会員の税理士や公認会計士が立命館大学・大学院の教壇に立ち、後輩学生や院生に対し会計や税法の実務を教えてきた。最近では、会員の事務所にて税法実務の研修（インターンシップ）なども受け入れている。今年度からは同会独自の寄附講座を法学部にて開講し、会員がリレー講義を展開するようになった。同会の取り組みについて、会長の村山佳也さん（'66経済）および取材日当日の講師・久乗哲さん（'01院経営）、そして大学側でコーディネーターを務める法学部教授・浪花健三さん、望月爾さんに話を聞いた。

立命館学園会計人会の寄附講座に関する取り組みを教えてください

村山 私個人としては、これまで約18年間にわたって本学経済学部と経営学部そして大学院にて「会計学特論」

「税務会計論」などの講義を担当してきました。いずれも、士業としての立場から会計・税法の実務を教えるものですが、テクニカルな部分を伝えるというよりは、将来同じ道を志す人を生み出せれば良いあとの気持ちで講師を務

めてきました。私に限らず本会会員の先生方はみなさん同じだと思いますが後輩や母校に対して、何かお役に立ちたいという気持ちが大きかったですね。

2008年度からは日本税理士会連合会の支援を得て、法学部にて寄附講座を



立命館大学技術士会幹事長
糸田川廣志さん（'72理工）

実施することになったのですが、私はこれをきっかけに、本会会員のほかの先生方にも講師をお願いしたいと考えました。そこで合計15回の講義を講師リレー方式で構成することにして、特に若手から中堅の先生方に出講をお願いしましたところ、皆さんご多忙を極めておられるにも関わらず、二つ返事で引き受けてくださいました。これは本当に嬉しかったですね。

この講義については、学生はもとより学部先生方にもご好評を賜り、日税連からの支援は昨年度で終了したものの、今年からは本会独自の寄附講座として継続することになったのです。講師陣についても2名だけ体調不良等を理由に辞退者がでましたが、そのほかの先生方については引き続きお務めいただいております。

講師をお引き受けになった理由は何ですか

久乗 私は大学院から立命館に学



立命館学園会計人会 会長
村山佳也 さん('66経済)

んだのですが、その時まさに本会の先生方の講義を受講したのです。当時私は既に社会人でしたが、先生方の会計・税法に関わる実務に即したお話は実に面白かったし勉強になりましたね。この経験に対する一種のご恩返しとして、今回の寄附講座の講師をお引き受けしました。他にも政策科学部や映像学部でも講義を担当しています。業務の傍ら準備をするのは本当に大変なのですが(笑)、学生達が会計・税法の実務について面白いと思うきっかけを是非とも作りたと思って、講義に臨んでいます。今日の講義内容『中小企業と法人税』は、学生にとっては実感を掴みにくい内容だと思いますが、終了後質問にきた学生達は随分熱心に勉強しているように感じました。

浪花 私たちも教室の後方で先生方の講義を聴講していますが、講義中中学生達の背中が次第に引き締まっていく様子をいつも感じ取っています。私自身実務家の教員ですが、実務現場



立命館学園会計人会 講師
久乗 哲 さん('01院経営)

のリアリティは、学生の興味・関心を刺激し学習意欲に火をつけますね。

立命館学園会計人会は他にも後輩支援の取り組みをなさっているとか

村山 毎年夏に本会の総会を開いていますが、私の前任会長の森金次郎先生('50専文)の時代より、税理士・会計士を目指している学部生・院生を招待しています。円卓に少人数ずつ配席して、まわりをぐるりと会員が取り囲むほか、前に出て一人ずつスピーチをしてもらいます。これにはびっくりする学生も少なからずいるようです(笑)。

望月 学生・院生を温かくご支援くださっていることを本当に嬉しく思います。私から見ると、本学の学生は皆真面目で熱心ですが少々引っ込み思案と感じる部分があります。土業の仕事は、資格を取得しただけで成り立つものでは決してありません。人前で堂々とスピーチをするくらいは難くこなすようにならないと(笑)。

会計人会の先生方には、講座のほ



法学部教授
浪花 健三 さん



法学部教授
望月 爾 さん

かキャリア教育への支援やゼミ学生とのディベート大会にも密接なお付き合いを頂いております。土業を目指す・目指さないに関らず、学生がとにかく出場数を多く踏むことは本当に大事です。同窓の兄貴・姉貴分たる先輩が、後輩達にこうした鍛錬の機会をも作ってくださるそのお心遣いに、あらためて心より感謝申し上げます。

立命館学園会計人会の今後の展開構想をお聞かせください

村山 本会の会員内においては、これまでの取り組みをベテランから中堅・

若手へ継承しつつ、母校・後輩支援をますます充実させていきたいですし、他の学部においても、同じような展開を試みたいですね。それらの取り組みの中で、我々の後進となる人材が育てば、これ以上嬉しいことはありません。先ほどの話にもあったように、資格があるからといって、即仕事に結びつくような環境は今既になく、資格をどのように活かして仕事をするのか、人とのつながり(ネットワーク)をどのように構築するのが、極めて重要な課題となっています。現役学生だけでなく、まだ本会会員ではない若い税理士・会計士の先生方ともコミュニケーションをとっていきたいですね。



『熊本県校友会主催 地元熊本での就職状況に関する情報交換会』が開催されました!

同会は2011年9月3日(土)、熊本県校友会総会開催にあわせて開催された。隈部幸一会長('72経営)は、「熊本での就職を志向する学生やその父母に対し、地元で活躍する校友が有意な情報を提供することで、その就職活動を支えたいと考えた」と企画趣旨を述べ、飯田俊之事務局長('82産社)は「職域に強みをもつ本会の人的リソースを活用し、『リアル』な情報を提供する体制を整えた」と添える。当日は県下各地より、23組33名の父母・現役学生が参加。県内の主要機関・企業にて勤務する松永奈美子さん('10法)はじめ4名の若手校友が各々の就職活動体験発表を述べた。

立命館大学生の熊本における就活に関するリアルな情報が発表されるとあって、参加者は皆熱心に耳を傾け、その後中堅世代の校友を交えたパネルトークにおいても多数の質問が寄せられた。父母参加者からは「子どもと同年代の先輩達が、自分達の言葉でありのままに体験談を語ったことに好感

をもった。子どもも就活への取り組み方について、具体的なイメージを掴んだのではないかと声が聞かれた。立命館大学キャリアオフィス衣笠杉町宏課長は「就職活動は『団体戦』。仲間と情報を交換・共有しつつ互いの研鑽を図ることで、各々の理想の進路が拓かれていく。今回のような校友会の情報支援も、まさに『団体戦』の1パートであると感じる」と同会の取り組みを評した。



「お菓子は大人が楽しむもの」

—菓子本来の姿を追い求めて—

フランス洋菓子専門店 W.Boléro (ダブルベ・ボレロ)

オーナーシェフ **渡邊雄二** さん ('89経営)

「食のアート」の世界に触れ 菓子作りの原点に

のどかな田園風景が残る滋賀県守山市。琵琶湖のほとりのこの小さな町に、全国のスイーツ通を魅了する店がある。フランス洋菓子専門店のW.Boléro (ダブルベ・ボレロ) だ。'09年より、フランス発チョコレート祭典「サロン・デュ・ショコラ」に出店。名立たる海外の高級チョコレートブランドと軒を連ねる、数少ない日本人シェフの店として注目を集める。一度口にすると忘れられない同店の菓子の数々は、オーナー・渡邊雄二さんの手から作り出されている。

渡邊 実家が洋菓子店だったので、小さい頃から自然とお菓子作りをするように。厨房デビューは中学1年生の時でした。ただ、そのままお菓子の世界に向かっていったかと言うとそうではなく、高校生の頃は音楽にのめり込んでいたのです。「大学受験に通らなければ、高校を卒業したらすぐに(菓子職人の)修行だ」と親から言われていたので、音楽に打ち込める自由が欲しくて受験勉強を必死に頑張りました。

立命館に入学後は音楽に没頭する日々を過ごし、卒業後も、好きな音楽関係の仕事に何とか就職できないものかと考えていました(笑)。最終的には修行に出ることを決心し、鎌倉にある有名洋菓子店に就職したのですが、そこで出会った師匠のお菓子の世界に強いカルチャーショックを受け、怒涛のごとくその世界に引き込まれていったのです。師匠の作るお菓子は「食のアート」。思いがけない世界観に触れ、それまで音楽に注いでいたパワーをそのままお菓子に移すように、あらためて菓子作りの原点に戻って勉強し始めました。

お菓子というのは、伝統も頑としてあるけれど、新しいものも求められる世界。定番もありますが、常に新作を出さなければなりません。それはミュージシャンも一緒です。ミュージシャンは北から南まで各国の音楽を取り入れて季節に応じて曲に変化をつけ、パティシエ(菓子職人)は季節の色や旬の素材を取り入れてお菓子を作る。音楽をしていた時、私はコーディネーターやアレンジャーとしての役割をすることが多かったのですが、曲をアレンジするのはお菓子を構成するのによく似ていて、頭の使い方が同じなのです。音楽とお菓子がこんな風につながるなんて思ってもみませんでした。二つの共通性に気付いて「この道だ」と確信しました。

鎌倉の店で修行を始めて2、3年経ったある日、師匠から「フランスで修行してみないか」と声をかけていただいたことがありました。修行先は、パリの菓子協会の会長を務める、厳しい修行で有名なパティシエの店。けれど、当時の私はずっと師匠のお菓子を学びたいという一心で、フランスへ行くことなどまったく頭になく、即座にお断りしてしまいました。数年後、初めての海外旅行でパリに行った時のこと。街の中を当てるように歩き回っていた時に、雰囲気の良い、どことなく惹きつけるものがあるお菓子屋さんがありました。後からわかったことなのですが、偶然にもその店が以前、修行に誘われた店だったので。それを知って「あの時もフランスに行っていたら、今どうなっていただろう」と考え込むようになってしまいました。チャンスが来た時に貪欲にトライしなかった私はフランスで修行する機会を逃してしまいました。家庭もある今の自分にはフランスで修行することはもはや難しい。「そんな自分にできることは、トップとして、日本で仕事をしながら、いかにフランスらしさを絶えず吸収していくかだ」。コンプレックスから、今につながる新たな目標を持つことが出来たのです。



お菓子は 子供を喜ばせるためにある？

鎌倉での修行を終え、帰郷。実家の洋菓子店で職人の道を歩み始めたが、日本の洋菓子のあり方が渡邊さんの前に大きく立ち上がった。自らが考えるお菓子と世間が求めるお菓子との間で葛藤するも、信念を持ち続けて独立。'04年、W.Boléroをオープンさせた。

渡邊 私が実家の店で職人をしていた当時、その時代そしてその土地では、お菓子と言えば「子供たちのためのもの」という考え方が普通で、お客様も店もそのようなお菓子を求めていました。けれど私は、お菓子は子供のためのものだとは考えていません。お菓子がヨーロッパでどのような位置づけにあるかという「大人の世界」。しかし、日本における洋菓子というのは、戦後、GIが子どもに配ったチョコレートに由来するのでしょうか、子どものご機嫌取りのためのもののように始まってしまった。ヨーロッパでは、お菓子は本来特別

な時に食べるもので、価格も高く、決して子供にほいほい食べさせるようなものではありません。京都の老舗和菓子店の生菓子などもやはり同じ。日本にも元々そういう菓子文化があるのです。

独立するまでには、研究のために様々な店のお菓子を食べ歩きました。すると自分が作るものと、東京やフランスの有名店のものとの差が格段に縮まっているように感じられたのです。自分のお菓子は他の有名店のものに決して負けていない、むしろおいしいんじゃないかと思うこともありました。手応えは十分ある。実家の店と自分が考えるお菓子とは方向性が異なる。だったら、新しいコンセプトで、新しい店で、一からスタートして自分のお菓子をお客様にお伝えしよう。「私のお菓子は必ずお客様を喜ばせることができる」と独立を決めました。

店を構えたのは妻の出身地。静かな、地方の町で、たくさんの方が行き交うような都会ではありません。でも、この場所でも店を成功させる自信がありました。なぜなら本当に食べ物に魅力があれば、それを目的にやってくる人が必ずいると信じていたからです。日本では、世界で腕を磨いたシェフ

の店が東京に集中するという時代がありました。しかし、レストランガイド『ミシュラン』の最高評価である三つ星レストランが小さな田舎町にもあるように、ヨーロッパでは地方にも素晴らしい店が点在している。日本でも世代が変わり、きっと地方の時代がやってくるだろうと私は思っていました。実際に、地方に素晴らしい店があることはもう珍しくありません。世間に迎合することなく、洋菓子を取り巻く世界が成熟してきたことの表れだと思っています。

日本の洋菓子の歴史の中では、今もまだ過渡期。私は「お菓子は大人が楽しむもの」と信じてやってきましたし、これからもやっていくつもりです。もちろんこの先も万人受けするお菓子が消えることはないと思いますが、10年前はまだ社会に受け入れられなかったこの方向性が、ようやくいま証明されつつあると感じています。

お菓子を取り囲む あらゆるもので表現を尽くして

シックで華のある装いに、深みのある味わい。渡邊さんが作るお菓子は、**尽き果てることのない探究心から生まれる。遠方からもたくさんの人々が引き寄せられてくるのは、お菓子自体の魅力だけでなく、お菓子を取り囲むあらゆるものに行き渡る「心配り」の結果でもある。**

渡邊 菓子作りで大切にしているのは、まず「材料」。素材本



来のおいしさを生かす方法を探し、今使っている材料よりさらに上質のものを吟味し続ける。当店の看板商品「アイアシッケ」(チーズケーキ)も、レシピそのものは20年前のものを守り続けていますが、材料は時代に応じて変えています。いつも研究し続ける気持ちを忘れてはいけません。二つ目は「鮮度」。出来立てのものをお客様に食べていただくと言うのは、当たり前のように実はいい加減にされていることが多い。当店では出来上がってから時間の経過が少ないものをお出しできるように、お客様の来店時のピーク時にお菓子が出揃うようにしています。

新作は、季節の素材や色合いなど必要性を考慮して作る場合もあれば、自分が観た映画作品からのイメージなど、まったくお菓子と別の世界からアイデアを得て作ることもあります。創造性が求められる時、とにかく引き出しは多い方がいい。特化すると詳しいけれどそれ以外は何も知らないというよりは、いろんなものに好奇心を持っている方が広がりができる。好奇心から生まれたお菓子がお客様に受け入れられる、パティシエにとってはそれが最高です。それに、フランス菓みにこだわっていてもフランスのことを何も知らないようでは、その熱意も一過性で終わってしまう。いつまでも情熱を持ち続け、成長し続けるには、新しい素材を探したり、新しい発想から思いついたものを形にしたり、何か常にし続けなければならない。

お菓子そのものだけでなく、店の雰囲気作りも重視しています。建物や庭といった店の外観・内装から、スタッフの菓子作りへの姿勢、接客対応まで、出来る限りの表現を尽くさねば、お客様に当店のお菓子を伝えきれない。特に、スタッフの教育には真剣にあたります。自分の弟子には将来店を持ってもらったり、ヨーロッパで経験を積んでもらったり、ここを卒業した後は一流の人になってほしいですから。

次の世代のために パイオニアとして進み続ける

「サロン・デュ・ショコラ」に出店するには、日本人のチョコレートの価値観を変革したいとの思いがある。今冬も、東

京・京都で開催される同展に出店を予定している。信じているものを見失わなければどんな環境の中でも目指すものに到達できることを、渡邊さんはこれからも体現し続ける。

渡邊 チョコレートは、日本ではバレンタインデーの時ぐらいいしか食べません。それを、誰かを訪問する時の気軽な手土産にするくらい身近なものにしたいとの思いから「サロン・デュ・ショコラ」の出店に名乗りを上げました。同展では、チョコレートの本場フランスやベルギーの有名なチョコレート職人が腕を競い合います。このような機会に、W.Boléroも同じポテンシャルの菓子作りをしているとアピールすることで、日本、特に関西でチョコレート文化を浸透させていきたいのです。すでに浸透しつつある東京では、展示会には全国からのチョコレート愛好者が集まり、舌の肥えたお客様たちはこちらの腕や使っている素材を鋭く見抜きます。気が抜けません。楽しみでもあり、勝負だと思って臨んでいます。

高い志を持ち続けていけば、日本にいながら海外で研鑽を積むのと同等あるいはそれ以上のレベルに高めることができるし、本物のもの作りをしていけば、都会でなく地方でもやっていける。そんな自分なりのスタイルで思い描いた人生を実現させることができるという証明者になりたい。後に続く人たちのためにも、私たちの世代はパイオニアになるべき責任があると思っています。

何がきっかけでその世界の入り口に立つかはわかりませんが、これから社会に羽ばたく校友の皆さんには、どんな世界であろうともその世界のキーパーソンになってほしいですね。



Profile



Yuji Watanabe

- 1965年 三重県生まれ
- 1984年 立命館大学経営学部 入学
- 1989年 同 卒業
- 鎌倉市、洋菓子店「レ・ザンジュ」入社
三輪壽人男氏(現パティスリーMIWAオーナー)に師事
- 1993年 三重県の実家の洋菓子店に戻り、工場長に就任
- 2004年 滋賀県守山市にフランス洋菓子専門店「W.Boléro」を創業
- 現在に至る
毎年1~2度、食材の研究のためフランス・イタリアを中心に渡欧

■ 現在

- W.Boléro オーナーシェフ
- ミモザ会(レ・ザンジュOB会) 役員
- クラブ・デュ・ラ・ガレット・デ・ロワ(伝統菓子の本来の魅力や文化を大切に、そして伝えたいと考える人のための会) 会員

「乗り越えよう」

被災地へ、宮崎県校友からのメッセージ



宮崎県校友会会長
高橋一身さん
(’73法、団体役員)
Isshin Takahashi

柏田精二さん
(’77法、県職員)
Seiji Kashiwada

坂口和也さん
(’01経済、建設業)
Kazuya Sakaguchi

津江健太郎さん
(’01法、宮崎市職員)
Kentaro Tsue
(以上、写真右から)



宮崎県校友会が行なった 支援の取り組みについて

高橋 東日本大震災のあと、福島県・相馬市に住む学生時代の茶道部の後輩が被災し、自宅も経営する工場も流失しながら避難所の方のお世話をしているという情報が入ってきました。その後輩から避難所で衣類が不足していると言いつけ、県の校友に衣類の提供を呼びかけたのです。校友がそれぞれの職場でも呼びかけてくれた結果、4tトラックいっぱいほどの衣類が集まりました。集まった衣類から、すぐに使える状態の良いものを厳選し、分類して一枚一枚ビニール袋に仕分け。荷造り作業には、幹事や事務局長からこれまで校友会活動に参加されたことのない方まで、総勢20名位が駆けつけてくれました。「なんとかしたい」という強い思いが校友のみなさんにあったからこそ、あれだけの量の衣類が寄せられたのだと思います。ダンボール約40箱の衣類は、5月上旬に妻とレンタカーで被災地に輸送しました。

口蹄疫の発生や新燃岳の噴火… 当時の現場の状況とは

柏田 昨年発生した口蹄疫では、県にいる牛の4割近い約29万頭の牛が殺処分になりました。殺処分の補助や関連する業務に、私の勤務先では職員ほぼ全員で対応にあたりました。夏場は蒸し風呂状態の防護服。作業場のひどい匂い。口蹄疫への対応だけでなく通常の業務も同時に行かないがらなので、本当にきつかった。他の職場等では、精神的、身体的疲れでノイローゼのような人もいたようです。私自身もあれだけの数の牛が死んでいくのを見るのはとてもショックでした。現場では情を抜きにして使命感でやっていましたが、(畜産)農家の方と一対一で話すと本当に胸が痛みました。終息宣言が出されたのは発生から約4カ月後。長かったです。

津江 県の中心部から発生したので、県一番の畜産地帯の西部へ飛び火しないかと皆が躍起でした。行政関係者は消毒作業をしながら殺処分も並行して行なわなければならず、職員が疲弊していくのが目に見えてわかりました。必死になって消毒作業をする間にも次々と発生が報告され、無力感を覚えながら黙々と作業を続けました。殺処分は薬注と埋却がセットになっており、獣医が牛に注射するのを補助する人と、死んだ牛を埋める補助をする人が百人以上で作業をします。その凄惨さはずっと忘れられませんが、本当に辛い作業でした。けれど一番辛い思いをされたのは(畜産)農家の方なのです。

坂口 新燃岳の噴火の際、建設業界は火山灰の撤去作業などで対応に追われました。

東日本大震災を受け、宮崎県校友会は県在住の校友に物資の提供をいち早く呼びかけ、被災地支援に取り組みました。口蹄疫や鳥インフルエンザの発生、そして新燃岳の噴火。一昨年より、宮崎県もたくさんの災害に見舞われました。自らも厳しい状況を乗り越えようとしながら被災地へエールを送る思いを、宮崎県での災害発生時の現場を知る宮崎県校友会会長 高橋一身さん、柏田精二さん、坂口和也さん、津江健太郎さんの四名に伺いました。

噴火の時、ちょうど山の麓にいたのですが、ドーンと音がして外に出てみると空が黒い雲で覆われていた。その後、都城市や、宮崎市、日南市でも噴石が降り、農作物は灰を被って収穫できず、たくさんの農家が打撃を受けました。まる一日灰を取り除いてもまた噴火して灰が降り積もることが数カ月続き、いつまでも先が見えずやるせない思いでした。積もった灰の影響で土石流など新たな災害が起きる可能性もあり、今も周辺の住民には不安が残っています。

災害による影響、産業の冷え込み

柏田 イベントがほとんど中止になったこともあり。鹿児島や熊本も含めて観光客が落ち込み、今もまだ以前の状態には戻っていません。

坂口 運送業者のダメージもひどかった。口蹄疫の際には、宮崎ナンバーの車両というだけで走行を断られる「風評被害」もありました。風評被害で言えば、宮崎産の野菜や肉の不買も一時期ありましたね。畜産は基幹産業だけに影響が大きく、当時は公共工事も含めてあらゆるものがストップしてしまった感じでした。

高橋 東北でもとりわけ福島などは、震災による三重苦ということが言われていますが、その状況が痛いほど分かります。

災害を経て、いまの思い

柏田 もしまた問題が起きたとしても、次は初動が早いはず。復興対策には全力で取り組んでいるし、現場の意識もかなり変化しました。それでも農家の方の不安感は消えず、なかなか

か立ち直れない人もいます。一方で、これをチャンスだと思って進んでいる人もいらっしゃいます。私たちも、明るい未来を信じてやっていきたいと思います。

坂口 前向きになっている人は県外にも打つて出るくらいの勢いです。とにかくみんなが復興のためにいろいろ考えています。

津江 県民性としては、のんびりとしていて努力を好まないところもある。けれど大変な事態があったことで、県民がまとまって立ち向かうという気運になったのはプラスの産物もあったのではないのでしょうか。ピンチをチャンスに変える、発展しようという風潮への転機だったと捉えればいいのかもしれない。

震災被災地の方々へ

坂口 いつになるかは分からないけれど、終わらないことはない。あきらめないでください。

津江 人の記憶は風化していくものなのかもしれない。でも、風化させてはいけない記憶があるということを私たちは忘れてはいけない。この震災も長期的に応援し続けたいと思っています。

柏田 宮城県に行った時、現地の方はあれほどの災害に遭いながら、宮崎の口蹄疫の被害のことを気にかけてくださった。そんな思いやりを私たちも持っていたい。「人間の強さ」を信じてこれからも前に進み続けてください。

高橋 何かしたいという気持ちは、宮崎県校友会だけでなく全国のみなさんが持っているものだと思います。私たちはその気持ちを持ち続けることが大切だと思っています。



輸送した衣類は夏物だけでダンボール40箱にもなった



ちがいににかかわらず、信頼できる人間関係の構築を

大震災のあと、被災地周辺の外国人住民の中には関西地方に避難した方々がたくさんいました。

重野亜久里さんが代表を務めるNPO法人「多文化共生センターきょうと」では、医療通訳の派遣事業などを通して

震災直後から被災した外国人の支援活動にあたっています。



多文化共生センターきょうと代表

重野亜久里さん
('00文)

Aguri Shigeno

Profile

北海道出身。大学在学中に、中国へ留学。'99年より「多文化共生センターきょうと」に勤務。中国系コミュニティを支援するプロジェクトマネージャーとして、地域住民と共に多文化共生の地域づくりに取り組む。'03年より医療機関へ通訳を派遣する「京都市医療通訳派遣システムモデル事業」を担当。事務局長を経て、'06年より「特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと」代表（現職）。

阪神大震災を契機に活動をスタート

阪神大震災が発生した当時、被災した外国人の方々に対して震災に関する情報を多様な言語で提供しようと活動を始めたボランティアグループがセンターの前身です。事業を通して、差別や在留資格など、外国人が震災前から抱えていた問題に気づき、震災に関する活動が終わる頃に「多文化共生センター」としてこれらの問題に取り組み始めました。外国人住民と日本人住民が共生できるまちづくりを目指しています。

東日本大震災を受けて事業を拡充。

新規取り組みも

日本語で症状をうまく伝えられない患者と医療者との意思疎通の手助けをするのが医療通訳。医療通訳の派遣事業は、センターと京都市国際交流協会の協働で03年にスタートしました。その後京都市が参画し、現在、市の事業として四つの病院で実施。年に約1,700～1,800件の利用があります。東日本大震災発生直後は、多数の外国人が関西に避難してきたため、センターでは市内・府内をはじめ可能な限りの範囲で通訳を派遣して対応しました。

震災を受けて、多言語医療問診システムモバイル版の無料提供も始めました。

患者の言語で症状のある部位とその症状を選択すると、医療者側の言語に翻訳してくれるツールです。1年ほど前から開発を行ってきたのですが、震災後、心の症状

や放射能に関する用例を追加し、通信のいない震災仕様に変更して、予定を早めて3月末にリリースしました。今は全国、海外でも利用があり、9月末までに13,000件ほどダウンロードされています。そのほか、患者向けだけでなく、医療者向けの問診システムも5月から提供を開始し、外国人が受診しやすい環境作りの手助けとなるよう事業を進めています。どちらのツールでも、今後科目を増やしていきたいと思っています。

取り組みから見えてきた

日本の中の外国人の状況

阪神大震災では、同じ国の出身者があまりいない外国人は孤立してしまうという事態が起きました。ただ、それは都市型の事例で、東日本大震災では外国人が孤立したという話はほとんど聞きませんでした。東北では、外国人住民と地域住民との間に「顔が見える」人間関係が震災前から構築できていたからのようです。この震災を通して、日ごろのお付き合いの大切さを感じました。

文化や言葉、外見が違って、信頼できる人間関係をどれだけ築くことができるか。一番の課題は、私たちの心の中にあると思います。異なる価値観に対して「日本人にしかわからないから」と言ってしまうとそれでおしまい。「違いから生まれる面白さ」をもっと楽しんで。外国人とは、私たちの多様性を広げてくれる存在なのではないでしょうか。

動物園・水族館は日本の「二つの宝」を守り、育む場所へ

日本動物園水族館協会（日動水）は、動物たちの救助や物資の輸送を行ない、震災で被災した園館の支援に取り組みしました。

しかし動物園や水族館に対する世間の関心は低く、復旧し、再開を果たした後も存続が危ぶまれています。

真の復興を目指して、日動水会長の山本茂行さんが動物園・水族館の新しいビジョンを示しました。

被災した動物たちの支援に奔走

動物園や水族館の施設そのものの震災による被害は大きくなく、大動物の脱走もありませんでした。しかし、広範囲にわたる被害で物流がストップしたため、被災した園館では動物たちのエサが不足。福島県のふくしま海洋科学館では、水槽の状態を管理する集中管理室が水没し、バタバタと魚が死んでいきました。

被害の大きさから、普段、親交のある園館同士の助け合いにとどまらず、日動水全体で取り組む支援が必要と考えて情報を一元化。日動水に加盟する園館を地域ごとに分けた各ブロックに支援を呼びかけ、数カ所の園館に支援物資を集中させて10回にわたって被災した園館に物資を輸送しました。ふくしま海洋科学館にいたセイウチなど38種類の生き物は16日から避難作戦を開始。園館の運営が自治体か民間かによってシステムが異なるため調整に苦労しましたが、発生から10日後には日動水全体として組織的に支援に取り組めるようになりました。

震災が起きてすぐに寄せられた世界各地からの問い合わせや支援の申し出に対しては、Facebookなどを通じて全情報を即時に発信。13日には見舞金の募集を始め、海外からの約2,000万円を含む総額約5,000万円が集まり、8月初めには、被災した園館に一回目の見舞金の贈呈をすることが出来ました。

震災をきっかけに問われた

動物園・水族館の存在意義

7月には被災したすべての園館が再開。しかし、運営は厳しい。これは、日本の動物園・水族館が「動物を見て楽しむ場」という100年以上の歴史から抜け切れず、自らの社会的な役割をしっかりと考えてこなかったことの表れです。震災では、生き物が本来持つべき「生きる力」が問われました。自然と向かい合わず、科学技術に依存した今の日本人の生きる力は非常に心もとない。自然と向き合うことができる最も身近な場所である動物園・水族館は、日本の将来にとって間違いなく必要な施設なのではないでしょうか。

変わろうとし、変わりつつある姿を

しっかりと受け止めて

日本の動物園・水族館は、二つの宝を守り、育てていく。一つは、生き物。もう一つは、生きる力を持った次世代の人間。これからの動物園・水族館を、この二つの大きな宝を育てる場所に育てていく。10月前半、チェコで行なわれた世界動物園水族館協会の総会でもこの決意を宣言しました（写真①）。震災を機に、動物園・水族館の必要性の是非とその評価を問い直さねばなりません。いま、動物園・水族館は単なる「子どもの遊び場」ではなく、つづつあるし、なくしていくべき。その姿をそれぞれの地域でしっかりと受け止めて、いろんな意見を言ってもらう国民的な運動を興したい。



日本動物園水族館協会会長、
富山市ファミリーパーク園長

山本茂行さん

('70産社入学)

Shigeyuki Yamamoto

Profile

富山県出身。学生時代を京都で過ごした後、富山へ戻り、富山市ファミリーパーク建設計画に参画。以降、ファミリーパークの運営に関わる。'83年、富山市役所都市開発部公園緑地課主査。'05年富山市参事、(財)富山市ファミリーパーク公社園長。'06年、日本動物園水族館協会理事。'09年、富山市理事。'10年、日本動物園水族館協会会長（現職）。現在、富山国際大学客員教授も務める。



写真①

提供＝日本動物園水族館協会フリー広報誌「どうぶつえんとすいぞくかん」発行人・田井基文

立命館大学校友会東日本大震災義援金について

これまで(2011年3月24日～11月30日)に以下の皆様方から義援金をお寄せいただきました。ご協力いただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

● 個人(卒業年・50音順)



個人情報保護のため、PDFではご協力いただいたみなさまのお名前を非表示としています。

| | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 2011年度幹事会出席者(179名) | 2011年度関西エリア新校友歓迎会参加者(145名) |
| 2011年度関東エリア新校友歓迎会参加者(175名) | 2011年度東海エリア新校友歓迎会参加者(145名) |
| 「オール立命館校友会2011in京都」参加者(1,343名) | 「オール立命館校友会2011in京都」広告協賛者(34名) |

● 団体・グループ・企業(50音順)

| | | |
|-----------------|----------------------------------|---------------|
| 愛知県校友会 | 秋田県校友会 | 尼崎市役所比叡会 |
| 市川会 | 宇部小野田校友会 | 愛媛県校友会 |
| 応化会 | 大阪校友会 | 岡山県校友会 |
| 香川県校友会 | 鹿児島県校友会 | 技術士会 |
| 岐阜県校友会 | 機友会兵庫支部 | 京都校友会 |
| 経営学部社会人学生同窓会 | 軽音楽部OB会 | 香立会(建設会香川県支部) |
| 写真研究会OB会 | 上海校友会 | スポーツフェロー |
| 住友電設R会 | 成学社立命会 | 体育会硬式庭球部OB会 |
| 体育会射撃部OB会 | 高槻島本校校友会 | 千葉県校友会 |
| 敦賀立命会 | 東京校友会 | 栃木県校友会 |
| 鳥取県東部校友会 | 土木47会 | 奈良県校友会 |
| 奈良県北部校友会(立命若草会) | 南海立命会 | 新潟県校友会 |
| 西宮市役所立命会 | 株式会社バチ・ホリック京都 | 兵庫県校友会 |
| 兵庫県校友会西宮支部 | 広島県校友会 | 広島県東部校友会 |
| 福井県校友会 | 福岡県校友会 | 法学部同窓会 |
| 三重県校友会 | 「オール立命館校友会2011in京都」広告協賛団体(102団体) | |

※卒業年、学部・研究科名は、校友会に登録されている情報に基づき記載しています。なお複数の学部・研究科を卒業・修了されている場合は、最終歴を記載しています。

合計 6,359,802円 (2011年11月30日現在)

個人 2,078名 2,314,483円
 団体・グループ 148件 4,045,319円

東日本大震災復興支援特別委員会の決定に基づき、以下の通り義援金の第二次配分を行なうこととしました。

- 時期: 12月7日送金
- 金額: 4,400,000円
- 配分先と内訳: 岩手県校友会 1,000,000円、宮城県校友会 1,700,000円、福島県校友会 1,700,000円

義援金募集

被災された校友の方々に少しでもお役立ていただくために、引き続き、全国の校友の皆様を対象に、義援金を募集しております。ひとりでも多くの皆様の温かなご支援・ご協力をお待ちしております。

■ 受付方法

募集の期間や口数・金額等は定めておりません。

<個人>

振込み手続きの際には、振込み人名の欄に、氏名、卒業年、学部名を記入(入力)してください。

例:「リツメイ タロウ S56 ケイザイ」

学部名の記入(入力)は、以下のとおりとしてください。

| | |
|-----------|-------------|
| 法学部=ホウ | 経済学部=ケイザイ |
| 経営学部=ケイエイ | 産業社会学部=サン |
| 国際関係学部=コク | 文学部=ブン |
| 政策科学部=セイ | 映像=エイゾウ |
| 理工学部=リコウ | 情報理工学部=ジョウリ |

<団体・グループ>

振込み手続きの際には、振込み人名の欄に、団体・グループ名を記入(入力)してください。

■ 芳名の公表

ご協力いただいた個人、団体・グループについては、芳名を、会報「リつめい」に掲載させていただきます。

匿名を希望される場合は、振込み手続きの際、振込み人名の欄に、氏名とともに「トクメイ」と記入(入力)してください。

例:「リツメイ タロウ トクメイ」

なお、この義援金募集に関わって、本会では領収証等の発行は行ないません。予めご了承ください。

ご不明な点がございましたら、立命館大学校友会事務局(フリーダイヤル0120-252-094)までご連絡ください。

■ 受付口座は以下の3つです

【受付口座1】

京都銀行: 二条駅前支店
 (普) 1020251
 (銀行コード0158: 店番コード129)
 口座名義 立命館大学校友会義援金口

同行本・支店間での振込みの場合、窓口・ATMともに振込手数料は無料となります。

【受付口座2】

京都中央信用金庫: 三条支店
 (普) 1180144
 (銀行コード1611: 店番コード006)
 口座名義 立命館大学校友会義援金口

同金庫本・支店間での窓口利用振込の場合「義援金の振込である旨」お申し出いただくことにより手数料が無料となります。但し、ATM利用の場合は手数料が発生します。

【受付口座3】

みずほ銀行: 京都中央支店
 (普) 2361818
 (銀行コード0001: 店番コード473)
 口座名義 立命館大学校友会義援金口

同行本支店間・みずほコーポレート銀行本支店からの振込みの場合、窓口・ATMともに振込手数料は無料となります。

携帯版「立命館大学校友会 東日本大震災復興支援情報サイト」が12月2日にオープンしました。

携帯版サイトからも掲示板への書き込みができるようになりました。他にも復興支援事業の詳細の確認などPC版サイトと同様の機能がご利用いただけますので、ぜひご活用ください。



携帯版サイト



<http://www.hajimari.info/next/mobile>

PC版サイト



<http://www.hajimari.info/next/>

ばんばひろふみさんが率いる校友バンド

VELVETS 解散



10代の頃の「ロック魂」と「友情」は、45年たっても何も変わらない

校友ばんばひろふみさん('73経済)が立命館中学・高校時代の同級生と高校時代に結成したバンド「VELVETS(ベルベッツ)」。途中の休止期間を含めその歴史は約45年間に及ぶが、このほど解散ライブを行なった。(2011年9月4日(日)ライブハウス都雅都雅にて)

3時間を越えるロングランライブは、VELVETS活動の集大成ということで、オリジナル曲に加えて、ベンチャーズ、ビートルズから、ディーブ・パーブル、レイ・チャールズ、エルヴィス・プレスリー、果ては演歌までジャンルが広範にわたるものの、ばんばさんはじめ7名全員がプロの誘いを受けたという演奏技量もあって、どの楽曲もロック色が溢れるエネルギーあふれる演奏を聴かせた。メンバーの山下勇さん('72理工)が経営するバー「ベルベッツ倶楽部」で後日開かれた打ち上げの場を訪ね、話を聞いた。



ライブお疲れ様でした。

「最後」のライブを終えた感想は

ばんばさん▶全力投球したので、ものすごく疲れた(笑)。今回のライブでは、二十歳前後のとき夜な夜なライブハウスでレパトリーにしてた曲を取り上げたんやけど、技術はもちろんのこと、演奏には体力がいるんやね。「うちのバンド、メンバーの加齢に伴って、続けられ続けるほど下手になっとるん違うか」って言うてるんです(笑)。

山下さん▶今回のライブに備えて、めっちゃ練習しましたよ〜。僕らは学生の頃から音楽への探究心が強かったから、いつも選曲がチャレンジングやった。「これ、ほんまに僕らでできるんか?」って思ったことも、しょっちゅうあったね〜。

メンバー全員がボーカルを務めたことに

びっくりしました。あとコーラスパートの

ハーモニーがすごくきまっていますね

辻好一さん('68立命館高)▶メンバー全員、ばんばに限らず目立ちたがり屋なもの

で(笑)。でも、コーラスを褒めてもらったのはすごく嬉しい。僕らは楽器置いてボーカルだけの練習もしてるけど、年々ハーモニーの溶け合いが良くなる。それこそ長いつきあい、いわば友情と絆がなせる技なんやね。

今回、解散を決めた理由と

今後のことをお聞かせください

ばんばさん▶僕らはバンド活動でも現役であろうとした。ライブに備えて一生懸命練習も重ねたしね。でもみんな還暦を過ぎて、病気を抱えるメンバーも出てきた。目標に向かってずっと走り続けるという状態からは、少し距離を置いてみたいと考えたんです。とはいえこれまでの長い活動を考えると中途半端にはしたくない。だから解散ライブを大々的にやった。本番ではいい演奏ができたし悔いは無いね。あっ、でもまた復活ライブとかやるかもしれないよ(笑)。僕らの友情は今後も変わることは決して無いし、皆にとってかけがえのないもんやから。

宮城県

宮城県校友会会長
下村 泰雄さん(61法)
2004年10月就任

復興支援メニューも活用しながら、大勢の方にお集まりいただく催しを実施し、さらなる復興に結び付けられればと思っています。

国内だけでなく海外からも届く校友の皆様からの励ましの言葉や支援に、わたしたちは物心両面で支えられています。こんなに温かく、強い絆で結ばれている学園のことを、これから大学への進学を考えている方にもっと広くお知らせしたい。また、ぜひ進学してもらいたい。校友会や学園が引っ張ってくださったおかげで、復興への加速ができました。この地で、私たちは新たに立ち上がっていきます。



下村会長

宮城県校友会

設立:1978年
会員数:約500名
総会・懇親会時期:毎年6月末~7月中旬
総会参加者数:約50名



写真提供:宮城県観光課

美術研究部の信州スケッチ合宿で(写真左から3人目が下村会長)



東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県。会員の方々の状況は。

下村●今回の震災では広範囲に被害が及び、多数の方が被災。一瞬にして生活スタイルが変わってしまいました。当会も何から手をつければよいのかわからず、ぼつぼつと連絡をとりながら会員の消息を確認してきました。被災者を助けようとしている人もまた被災者という状態。PTSDで苦しみながら支援にあたる会員や、経営する会社、家、何もかも失った会員もいて、一時は会全体が打ちひしがれた雰囲気にも包まれていました。

しかし、またこれからやり直そうという気運が出てきたことに勇気付けられ、新しい息吹を感じています。役員、幹事や各会員はそれぞれに多忙な中、活動再開のために献身的に協力してくれました。校友会や学園からもいち早く支援をいただき、じっとしてはいけないうまいで動き出すことができました。こうして再び総会を開くことが出来て感謝の思いでいっぱいです。

いま、「校友」というつながりに思うこととは。

下村●震災を機に、当会は組織としての体制が確立され、大きな連帯感が生まれました。発展の機会となったと、良い意味で受け止めたい。来年、当会は設立から35年目を迎えます。これを節目に、校友会の

2011年10月、仙台開催の「第29回全日本大学女子駅伝対抗選手権大会」と同日に開かれた総会の様子。



立命館にまつわる思い出を聞かせてください。

下村●修学旅行で訪れたのをきっかけに、京都に憧れて立命館に進学。学生時代はESSと体操部、美術研究部に所属していました。英語の勉強がしたくて入部したESSでは、川本八郎名誉校友たちと一緒に、御所で外国人観光客を相手に英語で観光案内。体操部は、高校から一緒に進学してきた友人と二人で創部しました。美術研究部では主務を担当し、三つの中でも一番熱心に活動に取り組みました。今では、絵を描くことは私にとっての良い気分転換法。仕事を離れて生涯続けられるものが得られました。

下宿先は相国寺の塔頭。同じ下宿の仲間は今でもよく覚えていて、同い年の同郷の友達とは年に1度くらいは会っています。美術部の後輩とも手紙のやり取りが続いていますね。授業はそんなに熱心な方ではなかったのですが(笑)、末川先生の講義だけは欠かさず出席していました。最近まで6年間ほど調停委員を務め、会社での経験も含めて法学部での学びは社会に出ても役に立っています。

仙台支社に勤務していた時に、支社の社史を編纂することになったのですが、その時に協力していただいた郷土史家が当会の前会長だったのです。その出会いが、校友会活動に参加するきっかけとなりました。

写真は自作のテーブル。手先の器用さは今も健在



気心の知れた関係ができています。身の丈に合った活動で地道に発展させていくつもりです。

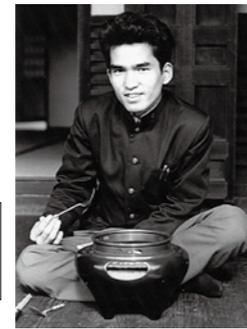
昨年、延岡市で懇親会を開催したところ、80歳を超えて生まれて初めて校友会活動に参加してくださった校友がいらしたのです。宮崎市外での開催は設立以来初めてのことでしたが、新たに校友を開拓し、互いの親睦を深めることができ、本当に良い試みだったと思います。その甲斐あって、トータルでみると参加者の数は増えています。次はぜひ別の地域でも開催したいですね。

これからの活動の抱負をお聞かせください。

高橋●より積極的に校友会活動に参加してもらうにはどうすればよいのか、財政基盤をどうしていくのか。これらの課題についてはみんなで知恵を出し合ってやっていかなければいけないと思っています。観光立県の住民として温かい「おもてなしの心」を持っている反面、「よだきい(=気だるい)」「のさん(=きつい)」という宮崎弁が県民性を表すと言われるように、宮崎の人は良くも悪くものんびりしている。当会も決してまとまりが良いとは言えません。しかし、校友会は多様な人の集まりであることに魅力があり、それを尊重し合っていきたい。これからも校友がいつも気軽に集える場でありたいと思います。

宮崎県

宮崎県校友会会長
高橋 一身さん(73法)
2010年1月就任



茶道部では灰切りの仕事を任されていた

学生時代はどんな毎日をご過ごされていたのでしょうか。

高橋●せっかく京都の大学に来たのだからなにか京都らしいものを身につけようと、2回生の時に茶道部へ入部しました。3回生の時は、授業の前にまず茶室に行って火をおこし、心静かにお茶を点てていましたね(笑)。当時は、大学の茶道部としては珍しく、先輩が後輩を指導していました。お点前の練習で一連の流れが美しくないと厳しく指摘される。1週間に1回は必ず灰切り

をしていましたが、これも大変な作業でした。お茶会用の「結界」を夜なべして作ったこともあります。ものを作る楽しさを覚え、今でもいろんな木工作品を趣味で作っています。作法を身につけられたこともさることながら、あれだけ厳しい部活を4回生まで続けられたということは大きな自信になりました。

なによりも末川博先生が存在が、立命館に進学を決意した理由。末川先生は、私の入学時にはすでに引退されていましたが、茶道部の開くお茶会にお越しくださることもありました。日本でも有数の法学者として知られながら、私たち学生にも偉ぶったところがちっともなかった。そんな方に触れ合う機会を持って、恵まれた学生生活だったと思います。在学中は学生運動が激しく、暗い気持ちにさせられることもあり、正直言って大学を辞めようと思ったこともありました。けれど現役時代に良き仲間仲間と囲まれ、向上心を持って働き続けることができたのも立命館で学んだからこそと、いま振り返って感謝しています。

宮崎の新たな会長となつて2年近くが経ちましたね。

高橋●就任当初は、会員の皆様のお世話が果たして私にできるのかと戸惑いもありました。今でも反省することはありますが、あまり肩肘張らずにやっていきたい。当会では3カ月に1回懇親会を開いています。参加人数は多くありませんが、密度は濃く、



高橋会長

宮崎県校友会

設立:1955年
会員数:約600名
懇親会時期:1、4、7、10月第3木曜
懇親会参加者数:約20名



オール立命館校友大会 2011 in 京都

後輩たちによるステージイベント

京都駅ビルでは、大階段付近の「室町小路広場」と、タクシー乗場付近の「駅前広場」にステージを設置。学生たちの元気いっぱいのステージに、通りがかりの人も足を止めて見入っていた。

室町小路広場ステージでは、落語研究会やJAZZ CLUB、dig up treasure (ダブルダッチ) などが出演。立命館小学校チア「Twinkle PeeWees☆」と立命館大学チア「PeeWees」とのコラボステージや、元NFLチアリーダーの小島智子さん('00 経済)のトークショーも行われ、華やかな雰囲気に包まれた。

駅前広場ステージでは、同日に始まった第26回国民文化祭・京都2011が実施する「第26回国民文化祭・京都2011 まゆまるチャレンジウェルカムステージin京都駅」を終日貸し切ってコラボレーションステージとして開催。立命館高等学校吹奏楽部の演奏のほか、国民文化祭・京都2011PR隊長の「まゆまる」を筆頭に、近畿2府4県と岩手・宮城・福島県各地から集まった総勢12体のゆるキャラが登場。アカベラと合唱4団体による大合唱で締めくくった。ステージ横では、立命館災害復興支援室や学生による震災復興の取り組みをパネルで展示し、立命館大学の東日本大震災に対する取り組みを広く紹介した。

駅前広場ステージ



立命館高等学校吹奏楽部の演奏も



ゆるキャラと立命館小学校チアの共演



立命館大学チアの若さあふれるステージ



JAZZ CLUBの演奏は大人の雰囲気でも

次世代校友のための特別講演会

ライフネット生命保険株式会社代表取締役副社長の岩瀬大輔氏を講師に招いた講演会。講演テーマは「変化をチャンスに変える方法」。会場に集まった約230名が熱心に聞き入った。



岩瀬大輔さん

一・笑・懸・命 四代目桂塩鯛落語会

校友で落語家の桂塩鯛さんによる特別寄席には約340名が来場し、会場は超満員。桂吉の丞さんが前座を務め、続く塩鯛氏の落語まで笑いの絶えることのない時間となった。



塩鯛さんの話芸に会場はとろこ



桂吉の丞さん

女性校友のための アフタヌーンティーパーティー

「オール立命館校友大会2010IN福岡」で好評を博した同企画を今大会でも開催。会場に並んだきらびやかなスイーツの数々に大きな歓声を上げながら、木村愛子さん('79 文)の司会進行のもと約150名の女性校友が交流を楽しんだ。



150名の校友がにぎやかに参加



セレブ感あふれるスイーツに感激!

10月29日(土)、京都市の「ホテルグランヴィア京都」と京都駅ビルにおいて、『オール立命館校友大会 2011 in 京都』が開催された。

滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の近畿2府4県の校友会と本部が実行委員会を構成。

全国各地から、ホテルグランヴィア京都での企画には関係者等を含め約1,900名が、京都駅ビルのステージには観覧者約5,500名が参加し、3年ぶりの京都開催となった今大会も大いに盛り上がった。

総会・懇親パーティー

総会・懇親パーティーには、総勢約1,600名が参加。17時、佐野哲夫実行委員長('82 経済)の開会宣言で総会がスタート。KBS京都報道部長の宮本英樹さん('84 産社)とRBC(立命館大学放送局)の内藤麻貴さん(産社3回)が総合司会として会を進行した。黙祷の後、校歌を斉唱。続いて、山中諄校友会会長('65 経済)から「震災という未曾有の災害を契機に校友の絆をより一層感じた。校友を中心とした皆様の励ましでなんとか復興していきたい」と挨拶があり、川口清史立命館総長が「これからも立命館は日本社会の再生に様々な形で先頭に立って関わっていききたい」と祝辞を述べた。その後、総会議事で2010年度決算・2011年度予算、2010年度事業報告、新役員報告の3議案を報告、会則一部改正の1議案を審議し、改正が承認された。

17時半には懇親パーティーへと進み、オープニングアクトでは、メンバー全員が校友でもある和太鼓・芸能集団「BATI-HOLIC(パチ・ホリック)」が力強い和太鼓演奏で会場を魅了した。今大会に招待された岩手県・宮城県・福島県在住校友の代表者6名も登壇し、パチ・ホリックメンバーのリードで和太鼓演奏に挑戦。3県の校友からは被災地への支援に対する感謝の言葉がそれぞれ述べられ、長田豊臣立命館理事長の乾杯発声で賑やかに歓談が繰り広げられた。

パーティーの途中には、駅ビルステージにも登場したゆるキャラ12体もかけつけた。また、別会場の様子の生中継や、RBCのメンバーが大会各企画の様子を収録、即時編集した「校友大会フラッシュバック映像」の放映なども行なわれた。

終盤には、近畿2府4県6校友会会長から2012年度の新潟大会を主催する関東甲信越10校友会代表者へ大会旗が引き継がれ、小野守通新潟県校友会会長('69 経営)の「固いことは言いません。来年はみなさん新潟へ遊びに来てください」の言葉で拍手が沸き起こった。応援団による応援歌斉唱の後、飛鳥井雅和校友会副会長('69 法)が中締めの挨拶を行ない、最後はご来臨の門川大作京都市長('74 法)による一本締めで盛況のうちに終了した。

なお、今大会では、参加費と協賛金収入の10%が「立命館大学校友会 東日本大震災義援金」に充てられ、参加することで被災された校友の支援につながる大会となった。(詳しくは、「立命館大学校友会 東日本大震災復興支援情報サイト」<http://www.hajimari.info/next/>)

2012年度は、2012年10月6日(土)、「朱鷺メッセ(新潟県新潟市)」において開催される。



岩手・宮城・福島3県の代表者も和太鼓に挑戦



川口総長



山中会長



飛鳥井副会長



RBCが収録した映像は即編集され、会場で放映



長田理事長の「乾杯」で歓談の花が咲く



BATI-HOLICの力強い演奏



盛り上がる会場



別会場でも盛り上がりを見せた



受付の様子



校友会旗は来年度の主催者の手へ



都道府県校友会

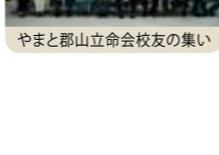
- 9/23 福島県校友会総会 (38名・くつろぎ宿新滝) 
- 10/1 新潟県校友会総会 (120名・ホテルイタリア軒) 
- 10/8 岐阜県校友会総会 (110名・岐阜都ホテル) 
- 10/16 茨城県校友会総会 (30名・三の丸ホテル) 
- 10/22 千葉県校友大会 (75名・船橋グランドホテル) 
- 10/23 宮城県校友会総会 (50名・仙台ガーデンパレス) 
- 10/29 京都校友会総会 (132名・ホテルグランヴィア京都) 
- 10/29 兵庫県校友の集い (135名・ホテルグランヴィア京都) 
- 10/29 和歌山県校友会総会 (63名・ホテルグランヴィア京都) 
- 11/5 福岡県校友会総会 (200名・ソラリア西鉄ホテル) 
- 11/5 大分県校友会総会 (90名・大分センチュリーホテル)
- 11/11 鳥取県東部校友会総会 (54名・しいたけ会館対翠閣)
- 11/11 山口県校友会総会 (65名・ホテル松政)
- 11/12 埼玉県校友会総会 「彩の国・校友の集い」 (49名・銀座アスター川口賓館)
- 11/12 鹿児島県校友会総会 (88名・鹿児島サンロイヤルホテル)
- 11/13 神奈川県校友会校友の集い (77名・崎陽軒本店)
- 11/19 愛知県校友会総会 「イヤーズミーティング」 (390名・名鉄グランドホテル)
- 11/19 鳥取県西部校友会総会 (22名・米子全日空ホテル)
- 11/19 宇部小野田校友会総会 (27名・ホテル河長)

- 11/19 北九州校友会創立40周年記念総会 (132名・リーガロイヤルホテル小倉) 
- 11/20 東京校友会校友大会 (118名・アンフェリシオン) 
- 11/20 静岡県校友会総会 「ALL-Rits校友の集い2011」 (39名・樟泉閣) 
- 11/20 広島県東部校友会総会 (65名・福山ニューキャッスル) 
- 11/23 岩手県校友会「沿岸地区校友会」 (11名・鳴石が丘会館) 
- 11/26 群馬県校友会総会 (27名・ホテルメトロポリタン高崎) 
- 11/26 佐賀県校友会総会 (41名・ホテルニューオータニ佐賀) 
- 11/26 長崎県校友会総会 (51名・ホテルニュー長崎) 

海外校友会

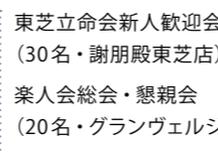
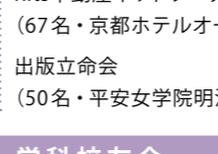
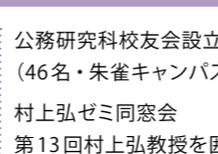
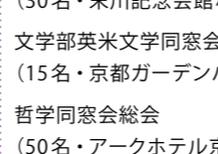
- 9/16 立命館大学と上海広小路会 「上海の夕べ」 (23名・ころり) 
- 9/17 バンクーバー校友会総会 (28名・Guu Garden) 
- 9/17 広州校友会発足記念総会 (7名・浅草亭) 
- 9/18 香港校友会総会 (15名・日本料理レストラン「大阪」) 

地域校友会

- 10/16 やまと郡山立命会校友の集い (28名・大和郡山城ホール) 
- 10/22 高槻島本校校友会総会 (100名・たかつき京都ホテル) 
- 10/23 長野県校友会中信地区会総会 (20名・川船) 
- 10/29 長野県校友会北信地区会総会 (20名・ホテル信濃路)

- 11/4 長野県校友会諏訪地区会設立総会 (15名・夢蘭) 
- 11/5 長野県校友会東信地区会総会 (20名・小諸グランドキャッスルホテル) 
- 11/6 淡路支部総会 (30名・きた八) 
- 11/11 北摂校友会総会 (56名・ホテルアイポリー) 
- 11/12 長野県校友会飯伊地区会総会 (15名・殿岡乃匠) 
- 11/19 広島県西部地区校友会総会 (30名・永渡屋) 

職域校友会

- 9/2 東芝立命会新人歓迎会 (30名・謝朋殿東芝店) 
- 9/22 楽人会総会・懇親会 (20名・グランヴェルジュ京都七条俱樂部) 
- 9/27 Rits不動産ネットワーク総会 (67名・京都ホテルオークラ) 
- 11/5 出版立命会 (50名・平安女学院明治館) 

学部・学科校友会

- 9/17 公務研究科校友会設立総会 (46名・朱雀キャンパス) 
- 9/23 村上弘ゼミ同窓会 (30名・末川記念会館など) 
- 9/23 文学部英米文学同窓会総会 (15名・京都ガーデンパレス) 
- 10/1 哲学同窓会総会 (50名・アークホテル京都) 
- 10/8 経済学部上野俊樹ゼミ同窓会 (18名・衣笠キャンパス) 
- 10/14 建設会岐阜県支部総会 (45名・ホテルリソル岐阜)
- 10/16 経済学部社会人OB会同窓会 (59名・京都ガーデンパレス)
- 10/16 生命科学部同窓会設立総会 (70名・BKC)
- 10/21 愛知県衣笠会総会 (50名・名鉄ニューグランドホテル)
- 10/22 建設会京都支部総会 (101名・京都タワーホテル)

- 10/29 産業社会学部校友会総会 (43名・ホテルグランヴィア京都) 
- 10/29 経済学部同窓会総会 (65名・ホテルグランヴィア京都) 
- 10/29 理工系同窓会連絡協議会 (25名・ホテルグランヴィア京都) 
- 10/30 数物会総会 (70名・京都タワーホテル) 
- 10/30 機友会関東支部総会 (30名・清澄庭園内「大正記念館」) 
- 11/12 機友会京都支部総会 (25名・京都ガーデンパレス) 
- 11/27 文学部校友会総会 (80名・衣笠キャンパス) 

サークルOB・OG会 / その他の会

- 6/12 能楽部OB会大会 (73名・朱雀キャンパス) 
- 9/18 経営研究会同窓会総会 (20名・京都タワーホテル) 
- 9/18 軽音楽部OB会 SUPER SESSION 2011 in KYOTO (63名・祇園ホテル) 
- 9/23 鳳凰会総会・ホームカミングデー (2000名・立命館宇治中学校・高等学校) 
- 9/23 立命館地理ルート101の会総会 (40名・ホテル阪急エキスポパーク) 
- 10/1 応援団OB・OG洛翠会総会 (16名・京都全日空ホテル) 
- 10/12 三四郎会 (29名・ホテル道頓堀) 
- 10/29 金太郎スキー同好会OB会 創立40周年記念パーティー (250名・京都ブライトンホテル)
- 10/29 ESS OB会総会 (37名・ホテルグランヴィア京都)
- 11/5 産社1970年Gクラス入学者還暦同窓会 (17名・コープイン京都ホテル)
- 11/11 土木41会 (35名・京都タワーホテル)
- 11/19 男子ソフトボール部OB会総会 (40名・衣笠キャンパス付近)
- 11/19 証券研究会OB会総会 (20名・聖護院御殿荘)
- 11/19 立命館清和会100周年同窓会 (1000名・ウエスティン都ホテル京都)
- 11/22 Rits不動産ネットワーク&R・E(同志社) クローバー倶楽部合同例会 (57名・京都タワーホテル)

SPORTS スポーツ

問い合わせ先: スポーツ強化センター
075-465-7863

女子陸上競技部

第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
3年ぶり6回目の優勝!

(10月23日 宮城県仙台市)

第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が杜の都仙台で開催され、立命館大学女子陸上競技部が、3年ぶり6回目の優勝を飾った。

当日は立命館大学宮城県校友会をはじめ東北各県の校友が仙台に集結し、関西から駆けつけた父母や立命館大学応援団の学生らとともに応援し、優勝を喜んだ。

1月15日(日)には全国都道府県対抗女子駅伝競走大会が京都市で開催され、女子陸上競技部から多数の選手が出場する予定。応援、よろしくをお願いします。



ホッケー部

ホッケー部男子
男子ホッケー日本リーグ初優勝!!

(10月23日 岐阜県グリーンスタジアム)

高円宮旗2011男子ホッケー日本リーグにおいて、プレーオフ最終日の決勝戦で名古屋フラーテルをペナルティストローク<PS>戦において5-3で破り、日本リーグ初優勝を飾った。

また、同日にホッケー部女子も終野ホッケー場で行われた関西学生ホッケー秋季リーグ決



勝トーナメントの天理大学との試合を3-2で勝利し、春季リーグに続き、関西学生ホッケー秋季リーグを制覇した。

柔道部

柔道部女子、全日本学生柔道体重別
団体優勝大会 創部初の準優勝!

(10月29日、30日 ベイコム総合体育館(尼崎市))

平成23年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会が開催され、柔道部が出場した。

本大会は体重区分として設定される7階級から1名ずつの代表が戦う団体戦で行われた。

決勝では惜しくも2-4で環太平洋大学に敗れたが、創部以来初となる準優勝の結果を残した。



日本拳法部

辻電汰さんが学生拳法の日本一に輝く!

(10月30日 名古屋市枇杷島スポーツセンター)

学生拳法の全日本チャンピオンを決める第27回全日本学生拳法個人選手権大会が開催され、各大学から選抜された約110名の選手が出場した。連戦を勝ち抜き、辻電汰さん(政策3)が見事優勝に輝いた。

居合道同好会

第26回全日本学生居合道大会・
団体戦で優勝

(11月20日 千葉県浦安市総合体育館)



第26回全日本学生居合道大会が開催され、団体で2年連続3回目の優勝を飾った。

居合道とは日本刀を用いて「形」を競う武道で、古くから伝わる技を演武し勝敗を決める。今年の全日本学生居合道大会には32大学が参加した。団体戦は各校5人の対戦で行われ、決勝では、京都大学に3-2で競り勝った。

立命館宇治高等学校

サッカー部が全国高校サッカー選手権
大会に2年ぶり2回目の出場決定!

(11月20日 京都市西京極陸上競技場)



第90回全国高校サッカー選手権京都大会決勝において、立命館宇治高等学校サッカー部が福知山成美高等学校と対戦。1-0で勝利し、2年ぶり2回目の優勝に輝いた。

全国選手権大会の初戦は1月2日(月)(14時10分キックオフ)。千葉県柏市柏の葉公園総合競技場にて、長野県代表の東京都市大学塩尻高等学校と対戦する。応援、よろしくをお願いします。

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先: 学生オフィス
075-465-8167

ダブルダッチ

ダブルダッチ 全国大会にて
優勝・準優勝! 世界大会へ!

(10月16日 エプソン品川アクアスタジアム)

ダブルダッチの全国大会『Double Dutch



優勝した「EO-CENCe」のメンバー

Delight Japan 2011』が開催された。本学から出場したダブルダッチサークル「dig up treasure」のチーム「EO-CENCe」が優勝、同じく「Fusion of Gambit」のチーム「Ballon D'or」が準優勝を果たした。両チームは、12月にニューヨークのアポロシアターで開催される世界大会へ出場する。

Windward

全日本学生ボードセイリング
選手権大会で小島真理子さんが優勝

(11月6日~10日 沖縄県国頭村)

全日本学生ボードセイリング選手権大会が行われ、レディーズ部門に出場した小島真理子さん(産社4)が9レースの総合ポイントで首位に立ち、初優勝を飾った。



かるた会

競技かるたのクイーン位挑戦権を獲得!
現クイーンとの同校対決へ!!

(11月20日 東京都文京区かるた記念大塚会館)

競技かるたの『第56期クイーン位挑戦者決定戦』が開催され、西日本代表として出場した本多恭子さん(スポーツ健康科学2)が東日本代表の三瀬愛子さん(筑波大学歌留多部)に勝利し、クイーン位への挑戦権を獲得した。

この結果を受け、クイーン位挑戦権を獲得した本多恭子さんは1月7日(土)、近江神宮勸学館にて開催される第56期クイーン位決定戦において、現クイーンの木本早紀さん(産社4)との同校対決が実現する。両名への応援をよろしくをお願いします。



クイーン位挑戦権を獲得した本多恭子さん

写真研究会

写真研究会と慶熙(キョンヒ)大学校
写真部との合同写真展示会を実施

(11月24日 衣笠キャンパス西側広場)

写真研究会と本学の協定校である韓国の慶熙(キョンヒ)大学校の写真部が合同写真展示会を実施した。

立命館大学と慶熙大学校は1994年より文化・スポーツ交流協定に基づく課外活動交流の実施と課外活動交流協定を結んで以来、毎年学生の交流を行っている。2010年度に実施された書道部の韓国への派遣に引き続き、18回目の交流となった。

展示会には、両大学の学生が京都で共に撮影した作品など約50点を展示。写真に関心のある学生、国際交流に関心のある学生など、多くの学生が展示会に足を運んだ。



交流に参加した両大学の学生たち

CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先: 学生オフィス
075-465-8167

2011 学園祭を開催! 今年のテーマは
「+one(プラスワン)」

(11月5日、6日 びわこ・くさつキャンパス、11月12日、13日 衣笠キャンパス)

2011年度立命館大学学園祭を開催した。今年の学園祭のテーマは「+one(プラスワン)」。学園祭というひとつの運動の中への巻き込み、統一感のあるつながり、そして+ (プラス)によって一段高いレベルにしていけるように、という願いが込められている。

当日は、模擬店・フリーマーケット、屋外企画などに学内外を問わず大勢の人が訪れ、両キャンパスとも盛り上がりを見せた。



今年は、鉄道研究会が実施した東日本大震災で被災した三陸鉄道の写真パネル展や、311+Rnetの学生による東北物産の販売、民科経済研究会による原発問題を考えるシンポジウムなど、震災復興関連の企画が特徴としてあげられる。

2キャンパス、4日間の学園祭を通じ、大規模なステージ上で音楽やダンスのサークル・有志団体がそれぞれの成果を発揮し、観客を魅了した。

BKCに1200人の小学生が集合!
「ジュニアスポーツフェスティバル
KUSATSU」を開催

(10月19日 びわこ・くさつキャンパス)

草津市教育委員会の主催のもと、「ジュニアスポーツフェスティバルKUSATSU(J.S.F)」が開催された。当日は、草津市内の小学6年生約1200名がスポーツを通して大学生との交流を行った。

小学生代表39名と地元サッカークラブ「MIOびわこ草津」の選手によるエキシビジョンマッチや、小学校優勝チームと立命館大学男子陸上部による白熱した100m対抗リレー、応援団チアリーダー部「PEEWEEES!」による演技が行われた。

参加した子どもたちは、元気いっぱいに交流を楽しんでいた。



経営学部、政策科学部、 経営学研究科、政策科学研究科 2015年4月、 大阪茨木新キャンパスへの 移転を決定

10月12日(水)、学校法人立命館は、経営学部、政策科学部、経営学研究科、政策科学研究科の2015年4月、大阪府茨木市に開設予定の新キャンパスへの移転を決定いたしました。

立命館では2011年度よりスタートした2020年までの計画要綱「R2020基本計画」に、京都、滋賀そして大阪の3つのキャンパスでの教育・研究の質向上を掲げていますが、今回の移転決定をステップとして、その豊富化・具体化にいつそう取り組み、キャンパス創造の全体像をつくりあげていく予定です。

移転の決まった学部・研究科

経営学部 (1962年開設)
所在:びわこ・くさつキャンパス

政策科学部 (1994年開設)
所在:衣笠キャンパス

経営学研究科 (1966年開設)
所在:びわこ・くさつキャンパス

政策科学研究科 (1997年開設)
所在:衣笠キャンパス

新キャンパスについて

開設時期: 2015年4月

場 所: サッポロビール大阪工場跡地
大阪府茨木市岩倉町1番地 他、
JR茨木駅徒歩5分

面 積: 121,891㎡



新キャンパス開設予定地

理工学部の教員・学生が被災地の 岩手・宮古の漁村に簡易集会所を建設



宮古市に建設中の簡易集会所

地域の交流の場だった介護施設が津波で流された岩手県宮古市重茂地区に、理工学部建築都市デザイン学科の宗本晋作准教授と学生約30名がドーム型の簡易集会所を建設しています。

宮古市社会福祉協議会が再建を計画。宗本晋作准教授が「被災者の役に立ちたい」と無償で設計を引き受け、実現したプロジェクトです。

参加した学生は、11初旬から宮古市内の仮設住宅に泊まり込み、地元大工の方の指導を受けながら集会所を組み立てています。完成した集会所は地域住民の新たな交流の場として利用されることを予定しています。

※本プロジェクトは、大学が公募した「東日本大震災 復興のための「私たちの提案」」に採択されている案件です。

ランチパック「ハンバーグとたまご」、 スポーツ健康科学研究科の大学院生が 山崎製パン株式会社と共同開発

スポーツ栄養学を学ぶスポーツ健康科学研究科の大学院生6名が、山崎製パン株式会社と共同で、同社の「ランチパック」の新商品「ハンバーグとたまご」を開発しました。

この企画は、山崎製パンの代表的商品「ランチパック」の新商品を、大学生が開発するという産学連携プログラムで2011年4月よりプロジェクトがスタート。立命館大学の他に同志社大学、関西大学、関西学院大学の学生も商



品を開発しました。

「ハンバーグとたまご」は11月1日(火)から12月31日(土)まで近畿2府4県(大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県と三重県の一部)のコンビニエンスストアなどで販売されています。

携帯GPSゲーム 「うじゅのばわ〜すぽっとめぐり!」 古都のほっこり嵐電つあ〜を 産学連携で開発

映像学部を中心とする学生8名と株式会社supernovaはGPS(全地球測位システム)機能を活用した、携帯端末型のゲーム「うじゅのばわ〜すぽっとめぐり!」古都のほっこり嵐電つあ〜を開発しました。これはご当地キャラクターとGPSゲームをコラボレーションさせた、新たな観光スタイルを提案する実験的な取り組みで、11月26日(土)・27日(日)に東映太秦映画村で開催された「太秦戦国祭り2011」と連動しました。

ユーザーは同祭りの公式マスコットキャラクターである「からす天狗うじゅ」と共にクイズを解きながら京福電気鉄道(嵐電)沿線の名所やパワースポットを巡りました。

ゲームを通じ、若い世代をターゲットとして京都の観光振興につなげていくと同時に、ご当地キャラクターを持つ各都道府県の観光振興の可能性を探っていきます。



携帯GPSゲームの開発に関わった学生

国際社会で活躍する人材を育てる 「キャリア形成支援を通じた グローバル人材養成プログラム」 最終成果発表会を開催

11月27日(日)、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、「キャリア形成支援を通じたグローバル人材養成プログラム」最終成果

発表会が行われました。

同プログラムは産学連携を通じた1年間の体系的キャリア教育プログラムです。29名の外国人留学生と、留学経験・海外在住経験のある(帰国子女等)日本人学生19名が、理系・文系、学部・大学院、年齢の壁を越えて参加し、今年4月よりスタート。夏期休暇中には、日本人学生が日本企業の海外現場(上海)を訪問し、外国人留学生が中国に進出した日本企業の国内現場の視察を行い、グローバル企業の課題や戦略について学びました。

プログラムの集大成として、グローバル展開する日本企業が抱える課題を企業より提示していただき、6カ国混合チームが、企業課題型フィールドグループワークに10月から取り組みました。成果発表会では、学生がそれぞれの課題の解決策を、ビジネスプロセス、国民性、文化、法律などを踏まえ提案。発表会には、課題を提示した企業の方々も参加し、意見交換を行いました。



留学生が小中学校を交流訪問 「わくわく異文化交流」をスタート

11月7日(月)、びわこ・くさつキャンパス(BKC)のエポックホールにて、留学生が地元・草津市内の小中学校(全19校)を訪問する「わくわく異文化交流」のオープニングセレモニーを開催しました。

「わくわく異文化交流」は草津市教育委員会が主催し、立命館大学の13カ国出身の留学生48人が草津市内の全19小中学校に派遣される地域連携事業です。2011年度から学習指導要領の改訂で小学校5・6年生に年間35時間の「外国語活動(英語学習)」が義務付けられたことを機に開始することとなりました。

11月8日(火)よりスタートし、留学生は英語を使ったゲームや歌、国の紹介の他、給食やクラブ活動にも参加します。



オープニングセレモニーの様子

65年の歴史を持つ立命館土曜講座 3000回を迎える

「土曜講座」は故末川博名誉総長が、「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにあること、学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」であると提唱し、1946年3月から衣笠キャンパスで開催している一般市民向け公開講座です。

今年の12月17日(土)で「土曜講座」が3000回を迎えることを記念し、11月に本学の校友である株式会社大垣書店代表取締役の大垣守弘氏らをお招きし、2回の特別講演会を開催しました。

今後も「土曜講座」では学問の動向や研究成果の紹介、古典や名著の解説、アクチュアルな時事問題の分析・解明など幅広いテーマで実施していきます。



講演する大垣守弘社長

文部科学省「平成23年度 大学の世界展開力強化事業」に 文学部が採択される

文部科学省「平成23年度 大学の世界展開力強化事業」に文学部が採択されました。

この事業は今年度が初となる試みで、「タイプA:キャンパス・アジア中核拠点形成支援」「タイプB:米国大学等との協働教育の創成支援」の2部門で公募があり、本学はタイプA-1「日中韓のトライアングル交流事業」において、広東外語外貿大学(中国)、東西大学校(韓国)と連携して行う「東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス」が採択されました。タイプB部門では立命館アジア太平洋大学が採択されています。

★詳しい事業内容は
立命館HPをご覧ください→
http://www.ritsumei.jp/news/detail34_j.html

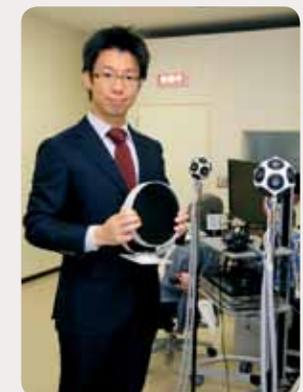
NEWS

震災復興支援に取り組む 立命館大学の研究者を紹介!

雑誌「AERA」(朝日新聞出版)にて研究者紹介シリーズ第4弾がスタートしました。

今シリーズでは、「2011年度 東日本大震災に関する研究推進プログラム」に採択された震災復興に関わる研究テーマを中心にご紹介しています。

2011年11月14日(月)～2012年2月27日(月)発行の雑誌「AERA」に毎週掲載される予定です。また掲載された内容は立命館HP「東日本大震災 私たちにできること」からもご覧いただけます。



11月14日発売号に登場した
情報理工学部の西浦敬准教授

東日本大震災 私たちにできること

メール 災害復興支援室 ▶ r2020@st.ritsumei.ac.jp
 HP 東日本大震災 私たちにできること ▶ <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311>

立命館HPの「東日本大震災 わたしたちにできること」ページでは、学園が取り組む支援の概要、災害復興支援に関するお知らせ・レポート、取り組みMAPなど立命館の復興支援に関わる情報を掲載しております。ぜひ、ご覧ください。

● 災害復興支援に関わる主な取り組み一覧 (一部抜粋) ※ その他、詳しくはHP「東日本大震災 私たちにできること」にてご覧いただけます。

| 取り組み名 | 時期 | 内容 |
|-----------------------------|------------------------------|---|
| 東日本・家族応援プロジェクト in ぶくしま 2011 | 11/29～12/4 | 9月に青森県・むつ市、11月上旬に岩手県・遠野市で行った応用人間科学研究科が実施する復興支援の取り組みの第三弾。福島県福島市チェンバにおまちを会場に、団士郎氏による漫画トークや遊びのワークショップのほか、クリスマス・カレンダー作りなどを行いました。 |
| 岩手県「沿岸地区校友会」の参加 | 11/23 | 岩手県陸前高田市鳴石が丘で開催された校友会の企画に、災害復興支援室、校友父母課より職員が各1名参加し、被災された校友の方々と交流するとともに、学園の取り組みについて紹介しました。 |
| 宮古・簡易集会所の建設プロジェクト | 11/6～1/9 | 岩手県宮古市重茂(おもえ)地区にある仮設住宅(13世帯)の敷地内において、地域の方々からの要請を受け、理工学部建築都市デザイン学科の宗本晋作准教授とゼミ生等の学生が、仮設入居者や地域の方々の交流スペースとなる簡易集会所の設計と建設に取り組んでいます。 |
| 東日本・家族応援プロジェクト in 遠野 2011 | 11/1～6 | 岩手県遠野市において、応用人間科学研究科が家族をテーマにした復興支援のための企画を開催しました。団士郎家族漫画展とともに、11/5(土)、6(日)には支援者支援セミナー、家族応援セミナーや子どもを対象とした遊びのワークショップを実施し、多くの来場者が訪れました。 |
| オール立命館校友大会 in 京都 パネル展示 | 10/29 | オール立命館校友大会の会場において、東日本大震災に関わる学園の取り組みを、学生団体と共にパネルで展示しました。 |
| 遠野市後方支援連携調整会議 | 10/12、10/26、11/9、11/22 | 岩手県遠野市が主催し、沿岸部の支援活動に取り組んでいる行政、団体、大学等が参加する後方支援連携調整会議に、10月から災害復興支援室も参加しています。立命館の災害復興支援についての情報提供や現地の支援ニーズ等の情報収集に取り組んでいます。 |
| スポーツ健康科学部の大船渡市ヒアリング | 10/24 | 大船渡市教育委員会との懇談を経て、被災した中学校での運動・健康面の支援について具体化を進めるために、スポーツ健康科学部と災害復興支援室が大船渡市立赤崎中学校を訪問し、先生方から現状と課題をお伺いしました。今後、他の中学校へもヒアリングを行い、支援内容の検討を進めます。 |
| 立命館未来プロジェクトフォーラム | 10/13、10/28、10/31、11/21、12/2 | 震災に関わって大学全体の教育・研究の方向性について議論するフォーラムを継続的に開催しています。これまで「災害とコミュニケーション」(第1回)、「近代の終焉という歴史認識から見た大震災と原発事故の意味を問う」(第2回)、「被災の知恵を学び今後に活かす」(第3回)、「技術と人間」(第4回)、「日本経済が直面する課題に大震災と原発事故が与えた影響-財政危機と地域再生の視点から-」(第5回)のフォーラムを開催。各回20名以上の教職員・学生・一般の方が参加し、各回のテーマを専門とする研究者の講演およびディスカッションを行いました。 |

● 今後の主な取り組み一覧 (12月2日時点) ※ 詳細やその他の情報はHPにて順次公開しております。

| 取り組み名 | 時期 | 内容 |
|--------------------------------|-------------|--|
| 立命館未来プロジェクトフォーラム | 12/16、1月、2月 | 立命館の教育・研究の方向性について議論する懇話会を「立命館未来プロジェクト」と題し継続的にフォーラムを開催しています。今後は12/16に第6回「東日本大震災を受けて、環境・食料を考える」を予定しているほか、2012年1月～2月には福祉、総合科学、ジャーナリズム等をテーマに随時フォーラムを開催する予定です。 |
| スポーツ健康科学部の大船渡市ヒアリング | 12/12 | 大船渡市教員委員会との懇談に基づいて、運動・健康面の支援に向け実施した大船渡市立赤崎中学校でのヒアリング(10/24)に続き、支援要請のあった同市立大船渡中学校、大船渡第一中学校においてヒアリングを実施します。 |
| プロ野球選手会主催「ベースボール・クリスマス in いわき」 | 12/4 | 立命館が包括協定を結び日本プロ野球選手会が、本年度実施する「FOR OUR KIDS」をテーマとした東日本復興支援活動において、福島県いわき市での「ベースボール・クリスマス in いわき」および、同日に岩手県陸前高田市・大船渡市での「ベースボール・キャラバン」が開催されます。立命館としては、各会場に学生ボランティアを派遣し、催しをサポートします。 |

日本学生支援機構(旧 日本育英会) 奨学金 返還中のみなさまへ ～お知らせとお願い～

● 返還は滞りなく行われていますか?

引き落とし口座の残高不足や住所変更による振込用紙の不着などで、延滞となっております場合があります。今一度、ご確認をお願いします。延滞される卒業生の方が多くなると、在学生の採用数が削減され、後輩たちの学業継続に影響がおよぶ場合があります。

● 在学中・入学準備中・経済困難・病気・失業などにより返還が困難となられた場合

状況に応じて、減額返還・返還の猶予を申請することが出来ます。以下をご参照いただき、日本学生支援機構に直接お申し出ください。延滞されますと、延滞金の賦課・個人情報情報機関への登録などの不利益が生じる場合があります。

*「減額返還」が今年度から新たに設けられました。

詳しくは以下をご参照、もしくはご相談ください。

HP <http://www.jasso.go.jp/henkan/index.html>
 電話 日本学生支援機構奨学金返還相談センター：0570-03-7240(8:30～20:00)

立命館大学の貸与奨学金の返還状況も併せてお確かめください。立命館大学の貸与奨学金返還についてのお問い合わせは以下までお願いします。

学生オフィス(衣笠)
 075-465-8168(土・日・祝日を除く 10:00～17:00)

リニューアルしました



+R なる人

想いを一つに。 チームで勝ち取った“復活”の優勝!

女子陸上競技部

田中華絵さん 経済学部4回生(写真中央)
 竹中理沙さん 経営学部4回生(写真右)
 岩川真知子さん 経営学部4回生(写真左)

立命館大学 各区間の走者(走区/氏名/学部回生)
 第1区 竹中理沙(経営4) 区間新
 第2区 藪下明音(経営2) 区間賞
 第3区 田中華絵(経済4)
 第4区 池田睦美(スポーツ健康科学1) 区間賞
 第5区 津田真衣(経営1)
 第6区 岩川真知子(経営4)

10月23日(日)、「第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」が杜の都・仙台で開催され、立命館大学女子陸上競技部が3年ぶり6回目の優勝を飾りました。チームを牽引してきた4回生の3選手に、優勝までの道のり、立命館大学の強さの秘訣、卒業後の抱負などを語ってもらいました。

田中さん▶▶ 昨年までは、駅伝を走った6人とそれ以外の選手との力の差が大きかったのですが、今年は監督が最後まで走るメンバーを選ぶのに苦労されていました。それくらい全員の力がレベルアップしたことが優勝できた一番の要因だと思います。

今年の夏までは優勝できるようなチームではありませんでした。個々の記録が伸びず、みんなこのままでは勝てないと思いながらも、「誰かが何とかしてくれる」「負けても仕方がない」という雰囲気がありました。それに気付いた4回生が7月の夏合宿のとき「今のレベルで勝てると思うか。絶対的エースはいない。一人ひとりが強くなければ勝てない。」と、檄を飛ばしました。それ以降、チーム全員が「優勝」を明確な目標として設定できたと感じます。

目標を掲げ、一致団結したときの強さは、立命館の特徴です。個々人が優勝できるタイムから逆算して目標タイムを設定し、達成するための練習を考え、実践しました。その結果、夏から秋にかけてほとんどのメンバーが自己ベストを更新することができました。

岩川さん▶▶ 私も優勝できたのはチームの力だと思います。それは、走った選手だけでなく、コーチ、サポートに回ってくれた選手、後輩たちみんなのおかげです。私は、ケガで走れない時期も多かったのですが、同回生が精神的に支えてくれたり、頑張っている後輩たちを見て勇気付けられたりしました。4回生の最後に、アンカーとして走らせてもらったことに感謝しています。また、応援に来てくださった皆さん



にも感謝しています。私は宮城県出身で、高校時代の友達の中には、東日本大震災で被災した人もいます。それにもかかわらず、友達や高校の先生、立命館の校友の方々が沿道から「立命館がんばれ!」と応援してくれたことは大きな力になりました。立命館の声援がどの大学よりも一番大きかったです。

竹中さん▶▶ 卒業後は、田中も、岩川も、私も実業団に入り、それぞれの道でオリンピックを目指します。立命館で培った、いい時も悪いときも自分を信じ、ひたむきに努力する気持ちを忘れずに社会人になっても頑張っていきたいと思います。そして近い将来、3人そろってオリンピックに出場し、世界を舞台に日本代表として戦うことが夢です。

田中さん▶▶ 年明けの1月15日(日)には、京都で全国都道府県対抗女子駅伝競走大会が開催されます。この大会には、私たち3人をはじめ多くの立命館の在学生・校友が、都道府県に分かれて出場します。私たちも精一杯頑張りますので、応援よろしくをお願いします。



News

2012/1/15 開催! 第30回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

立命館大学女子陸上競技部から多数の選手が各都道府県の代表として出場する予定です。ぜひ、選手たちに応援よろしくをお願いします!

時間: 2012年1月15日(日) 12時30分スタート
 会場: 京都市西京極総合運動公園陸上競技場をスタート・ゴール
 放送: NHK総合テレビ・ラジオ第1放送で中継(予定)

がんばれ

| 校友会・グループ インフォメーション | | | | |
|--------------------|---------------|-------------|--------|-----------------|
| 校友会・グループ | 日時 | 会場 | 問い合わせ先 | |
| 島根県校友会総会 | 1/21(土) 12:00 | サンラポーむらくも | 田中 安信 | 0852(27)2903 |
| 建立会総会 | 1/21(土) 14:00 | ヴィアール大阪 | 原田 直樹 | 090(8933)7108 |
| 北朋会 | 1/28(土) 12:00 | ホテルライフオート札幌 | 中村 素木 | (職)011(381)8888 |
| 北海道校友会総会 | 1/28(土) 16:30 | ホテルライフオート札幌 | 中川 均 | (職)011(251)3373 |
| 姫路立命会総会 | 2/4(土) 15:00 | まねき食品 | 中塚 孝継 | (職)079(230)5129 |
| 奈良県校友会総会 | 5/12(土) 14:00 | 天理教第38母屋 | 福井 徳丞 | 0744(22)1697 |

校友会消息 (判明分)

| | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|
| <p>叙勲2011年秋</p> <p>■瑞宝中綬章</p> <p>志村治美氏 立命館大学名誉教授</p> <p>田中道七氏(教職員校友) 立命館大学名誉教授</p> <p>■瑞宝小綬章</p> <p>金光信哉氏('56法) 元兵庫県警本部保安部長</p> <p>坂本 護氏('64経済) 元公立高校長</p> <p>姫野忠弘氏('66法) 元公立高校長</p> <p>松野利彦氏('60文) 元公立高校長</p> <p>村本武彦氏('59文) 元公立高校長</p> | <p>森脇史郎氏('63法) 元京都市上下水道事業管理者</p> <p>■旭日双光章</p> <p>川勝主一郎氏('55経済) 京都府ラグビーフットボール協会会長</p> <p>■瑞宝双光章</p> <p>小西恒夫氏('66経済) 元石田幼稚園長</p> <p>関目昌夫氏('54理工) 元京都府土木建築部技監</p> <p>竹村政男氏('60法) 元阿倍野郵便局長</p> <p>山上康夫氏('57経済) 元京都市消防正監</p> <p>■瑞宝単光章</p> <p>磯島文雄氏('53理工) 元滋賀県警技術吏員</p> | <p>危険業務従事者叙勲2011年秋</p> <p>■瑞宝双光章</p> <p>川幡忠彦氏('67法) 警察功労</p> <p>白石和雄氏('67法) 警察功労</p> <p>瀨古晃弘氏('60経済) 消防功労</p> <p>竹田弘之氏('66法) 警察功労</p> <p>堤原 洋氏('67法) 消防功労</p> <p>中瀬和行氏('66経済) 消防功労</p> <p>堀 陽彦氏('67法) 警察功労</p> | <p>南 悟氏('64法) 警察功労</p> <p>■瑞宝単光章</p> <p>梶川卓郎氏('62法) 警察功労</p> <p>小寺忠生氏('08文) 消防功労</p> | <p>就任(内定含む)</p> <p>奥村展三氏('63文入学) 文部科学副大臣 9月5日就任</p> <p>檜木裕二氏('85法) (株)コージツ代表取締役社長 9月21日就任</p> <p>加藤敏雄氏('71経営) (株)北九州銀行代表取締役頭取 9月9日就任</p> | <p>横井 明氏('45法文) (校友会顧問) 10月25日ご逝去。88歳</p> <p>末川 清氏 (立命館大学名誉教授) 11月1日ご逝去。78歳</p> <p>遠藤 彰氏 (立命館大学理工学部教授) 11月11日ご逝去。64歳</p> <p>鈴木正三氏('47法文) (立命館理事・評議員) 11月12日ご逝去。88歳</p> <p>井元章夫氏('69経営) (立命館大学女子陸上部監督) 12月2日ご逝去。65歳</p> |
|---|--|---|--|---|--|

BOOKS

| | |
|--|--|
| <p>校友会へご惠贈くださいました本の中から紹介させていただきます。</p> <p>◆御峯知克氏('58文)著 『山靴の足あと』 出版共同販売* 1600円+税</p> | <p>◆西村 仁氏('85理工、'06院経営)著 『図面の描き方がやさしくわかる本』 日本能率協会マネジメントセンター* 2200円+税</p> |
|--|--|



立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

| | |
|--|--|
| <p>第70回ミニ企画展示</p> <p>「ミュージアム・この1てん 紙芝居『宣戦』」</p> <p>立命館大学国際平和ミュージアムの収蔵品を紹介する「ミュージアム・この1てん」。今回は、紙芝居がテーマです。戦時中、紙芝居は人々にどのようなメッセージを伝えていたのでしょうか。真珠湾攻撃の1周年にあたり発行された国策紙芝居*を通じて、戦争と平和を考える機会になればと開催いたします。</p> <p>*国の政策(特に戦争)の宣伝をして協力させることを目的に作られた紙芝居のこと。</p> | |
| <p>第71回ミニ企画展示</p> <p>第17回京都ミュージアムロード参加企画「建物疎開と京都の町」(仮)</p> <p>「建物疎開」とは、空襲による類焼を防ぐために、家屋を取り壊して無人地区を作る作業の事。建物疎開が実施されるまでの概要(一五年戦争末期の日本の空襲に対する考え方)と、京都での建物疎開やそれにかかわる活動の実態を紹介します。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>会期</p> <p>第70回ミニ企画展示 「ミュージアム・この1てん 紙芝居『宣戦』」 2012年1月11日(水)～25日(水)</p> | <p>開館時間</p> <p>午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)</p> |
| <p>第71回ミニ企画展示</p> <p>第17回京都ミュージアムロード参加企画「建物疎開と京都の町」(仮) 2012年2月5日(日)～3月20日(火・祝)</p> | <p>休館日</p> <p>月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日、'11年12/26(月)～'12年1/5(木)</p> |
| <p>常設展示(地階・2階)は上記展示期間以外でも見学することができます。</p> | <p>観覧料</p> <p>一般400円(350円)/中・高生300円(250円)/小学生200円(150円) ()は20名以上の団体料金/障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料</p> |

熊 本県校友会が開催した『地元熊本での就職状況に関する情報交換会』に賛意を表するとともに、今後このような取り組みが全国に広がることを期待しています。かつて、学生の就職支援にかかわりましたが、地方の就職状況の把握には極めて不十分なところがありました。校友会事務局や父母教育後援会の支援を受け、全国主要都市で地方別就職懇談会を実施しましたが、採用情報については就職課員による地方企業の訪問などに頼らざるを得ませんでした。今回、熊本県校友会長が「校友会の果たすべき役割とは何か。それは母校や後輩学生達の支援であろう」と企画趣旨を述べられたとのことですが、小生も同感です。現役の学生達に役立つ取り組みを積極的に行なうことが、なお一層校友のやりがい、母校への支援につながるものと確信します。(YT)

先 日、びわこ・くさつキャンパス(BKC)でゲスト講師として教壇に立つ機会がありました。社会人から実務の話を知りたいとのご要望を受けて、製造業でのモノづくり現場のご紹介をしました。わたしが学生の頃には授業で学外の方の話を書くという経験はありませんでしたので、こうした取り組みは研究と実務の距離を縮めるよい機会であると感じました。ここで驚いたことは、授業の活性化が高く、講演後にも何人もの学生さんの質問を受けたことでした。講義の内容以外にも、これからの研究テーマや、就職活動に向けての企業研究の仕方など、学部2回生のうちからこうした高い意識を持った後輩を頼もしく感じた秋の一日でした。これから寒さも本番ですので、校友の皆様もどうぞご自愛ください。(西村仁)

11 月でも、最高気温が25度以上の夏日が何日もあるおかしな気候が続きました。ほんの20年ほど前まで、我が国は四季の変化が美しい国であったのに、今では「季節は、夏と冬の二つだけで、夏の前半には雨期があります。夏と冬の変り目は、1カ月もありません」と、外国の人には紹介したほうがよいようです。これも、いわゆる温暖化の影響なのでしょう。二酸化炭素の排出量を抑えることが温暖化対策になり、そのために原子力発電が推進されてきたはずでしたが、3・11以後、原子力の安全性という幻想は崩れ去り、一度事故が起こると、科学技術の最も発達した国の一つである日本ですら、制御できなくなることが明らかになってしまいました。我々はどこへ向かえばよいのですかね。(GEORGE)

東 日本大震災を境に、日本人の考え方が大きく変わったと思います。国レベルでは「成長」から「安定」、個人レベルでは「個人志向」から「仲間・家族志向」といった具合に。大学教育も、時代の変化にあわせて変わっていくべきかもしれません。これまでのように、学生に「目標」を設定させ、高嶺に向かって頑張らせることも大切ですが、日常の学習に価値を置き、そこから発見や成長を感じさせる教育も現在の気風にマッチするのではないかと、日々の学生の言動から感じることがあります。日本も、大学も、立命館もこれまでにない「転換期」を迎えていると思います。私たち校友は、これからは立命館が「元気」であることが喜び。そのためにも、変化をおそれず、日常の中から新しい価値を発見していくことが大切だと思ふこの頃です。(加藤良直)

堂本印象美術館企画展のご案内

| | |
|---|-------------------|
| <p>企画展</p> <p>「印象のまなざしー都市と自然」</p> <p>山や川、渓谷や森といった日本的な自然風景のほか、ヨーロッパ都市の街並みも意欲的に描いた堂本印象。本展では、印象の画業の中から多彩な風景表現をスケッチとともに紹介します。都市と自然の表現を通して印象の風景への関心を読み取っていただければ幸いです。</p> <p>関連企画 2012年1月28日(土)、土曜美術茶論「風景へのまなざし」(鳥田康寛・当館館長) 2012年2月19日(日)、堂本印象連続講座4「印象の芸術論(仮題)」(原田平作・愛媛県美術館前名誉館長)</p> | <p>中山七里 1945年</p> |
| <p>企画展</p> <p>「暮らしのすがたー時代・社会」</p> <p>古今東西の世相を映し出した作品を紹介することで、時代や社会を見据える印象のまなざしに迫ります。</p> <p>同時開催：ミニ企画展「印象の襖絵下絵」 歴史的に有名な京都の寺院障壁画の下絵を展示します。様々な襖絵表現から、印象の多彩な画業の側面を紹介します。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>企画展</p> <p>「印象のまなざしー都市と自然」/ ミニ企画展「印象の神仏画」 開催中～2012年3月11日(日)</p> | <p>開館時間</p> <p>午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)</p> |
| <p>企画展</p> <p>「暮らしのすがたー時代・社会」/ ミニ企画展「印象の襖絵下絵」 2012年3月16日(金)～5月27日(日)</p> | <p>休館日</p> <p>月曜日(祝日の場合はその翌日)、'11年12/28(水)～'12年1/4(水)</p> |
| <p>観覧料</p> <p>一般500円(400円)/高校・大学生400円(320円)/小・中学生200円(160円) ()は20名以上の団体料金 65歳以上の方(要証明)および障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料 ★イベント・ガイドは、堂本印象美術館 で、検索</p> | |

立命館大学国際平和ミュージアム
特別展 常設展
2011年3月25日(日)まで
校友会入り券
No.247

立命館大学印象美術館
特別展 常設展
2012年3月25日(日)まで
校友会入り券
No.247